

31 2 3 4 5 6 7 8 9 10

方言録音資料シリーズ—6

秋田県男鹿市脇本大倉方言

北条忠雄編

1968

もくじ

収録地点とその方言について	2
表記について	3
本文	
① <なまはげ>の話	5
② 烏コの話	9
③ 訪問の対話	12
④ <昔は苦労した>という話コ	13
⑤ <疊> よもやま話	21
⑥ 卛度の話	27
⑦ 男鹿地獄の話(その1)	31
⑧ 男鹿地獄の話(その2)	37
⑨ お昼の対話	41
⑩ おじいさんとおばあさんの歌コ	43
⑪ 例のかぞえ歌	44
⑫ 若い時の話ちよびり 一夫婦仲よくかせいだこと	45
⑬ やづのめ 一一つの花に実が八つなる梅の話コ	46
附 築次郎という男の話 四つ	
① 築は川に	48
② 紅餅	49
③ 山さ行ってマギきり	51
④ 若勢ぶり	52
附 音 話	
① 松かさ三升で炊事 一縁の資格試験	54
② <やぐわん>と<めくされ>それに<くじらみたがり>の話	57
③ 孤とむじなどを化かした話	60
④ 無実の罪に泣く如来さま	63
⑤ ダンゴがドンになった新コ 一コブのおかげでやっとがダンゴに	66
⑥ 風雅を解するジッヂナとパンバ	68
⑦ 餅粉の整鼻術 一昔の整形外科	70
⑧ 米ぶぐと栗ぶぐ	72

このテキストは、総合研究「地方における話したことば教育法改善のための基礎的研究」(代表者大石初太郎)の一部として、研究用の資料として作られたものである。

方言の録音方法、方言の表記の方法などのあらましについては、別に作った「方言の録音とテキストの作成について」(国立国語研究所 段ことば研究室編)を参照されたい。

ここに収めた方言の録音とテキストの作成とは、秋田大学教授 北条忠雄が担当した。

収録地点とその方言について

1. 地点名：秋田県男鹿市藤本大倉

2. 収録地点の概要

船川駅駅舎から下車左折して4分ほどにて更に左折・船川線の踏切を越えて道路を北上すれば左手に見える(田園をこえて)のが大倉である。さらにもう15分ほど北上、左折してこの部落に入る。北西に寒風山を望み東上の展望台ときどきにみとめ得る、寒風山麓の小山村である。かって寒風山は松木も茶薪と焚いていた由で村人は田におり山において働くのが日常の仕事であった。現在は農業がもっぱらである。(山に働きに行くのもオーリルという)

3. 収録した方言の特色

錄音したものの中で特に留意したい現象は、

1. 通常に由利方言に見えるDEPOが見えることである。
ドゴア クレデ イグバ イインデロ 【10】
但し由利の如くに近くあらわされているということとはできず又<ペ>でも見えている。
2. 由利平鹿掛語を聞いて意図は、秋田方言では、終止形を使用するのが普通であるのにここではヤロガ(ようか) ヨロガ(きようか)などの用法が見えている。イマダケア シノダケア タエヘンドダア 【1】イマダケアイマダバ (ケニアバ) シノダケアは秋田方言では死ヌズバタバが普通である。シノダケアは<死のうだば>である。北越後でいうシノンダムに当る。
3. ガエ (gaa) に、全く疑問の意味がない単なる<歎歎>としか考えられないものが見えている。
4. 秋田全般にヤルとケルとをすべてケルで表現する。ところが南秋田郡ではダスは相手にケルことでありケルは自分へ(くれる)ケルことである。普通のダスはどういうこととなるとこれはトダスといふ。(男鹿地圖のところに見える)

4. 地点選定の理由

特別の意図はなかったわけであるが、ただ秋田市周辺はそれに近い箇内が案外おろそかにされ又調査者自身としてもその意向があったため、検討しておく必要があると考えたこと、同時にこの原本あたりは男鹿半島と南秋田郡との境目にあたり、何か特異な現象もと考えられたこともあった。結果は現状注目すべく、向後さらなる推察と対究とをすることを確認した。(上記に一

部撰録)

-2-

表記について

(指定の字母以外に使用した字母、および使用した補助記号)

特になし

表記は大体<1966-10-20>の<方言の表記について>に見られる表記法に従った。それと異なる点は大体次の通りである。

- 1) <i><イ>と<エ>とは一応同じ phoneme と判断され、かつ表記の便も考慮して〔e〕とした。〔e〕は〔i〕〔u〕〔e〕の中間に位する母韻と考えての処置である。
- 2) <レ><ス>と<ス> <チ><シ>に限り中舌母音記号を使用した。例えば〔s+〕〔s+〕、〔c+〕〔c+〕 但し両者とも一つに統一せず<レ>に近く聞えるものを〔s+〕<ス>に近く聞えるものを〔s+〕とした。他のイ列 ウ列には中舌母音の記号は用いていない。
- 3) か行タ行の語中有声化は一般に補助記号〔v〕〔d〕を使用しなかった。一々濁音に表記することとした。というのは〔v〕で終始すると、濁音でいわれたのに〔v〕を入れ忘れたのではないかとも心配されるからである。但し少く〔v〕を用いた。
- 4) (k ¹) (k ²) (k ³) 一応この三者を区別したが、2と3と項目あたりはどちらにしても差支えない。
- 5) 共通語訳はその意味を、解説を抜きずに把握しやすくするために、意訳して専用表字以外をも使用してある。

秋田方言の録音

1967.2.26

秋田県男鹿市藤本大倉

昭和42年2月26日 秋田県男鹿市藤本大倉で録音したものです。

藤本はもと南秋田郡に属し、秋田から船にていたる船川港の船川へあと二つ目というところにこの藤本の店があります。秋田市から藤本駅まで鉄道の距離で、31.9キロ(メートル)あります。原から大倉(被調査者宅)まで徒歩約25分です。

取扱録音の場所は、藤本大倉の吉田源蔵さんのお宅で、登場するかたがたは、おじいさんの(夫)吉田源蔵さん84才とそのおばあさん吉田アラさん77才、それに83才の、吉田さん宅から近所へ隣り入りした安藤リワさんです。

聞き手の中心になっているのは吉田ナツさんで聞き手は(秋田)県立男鹿高等学校の柴地教諭とわたくし北条です。

秋田市も、この藤本のあたりも(珍しく)もう雪はすっかり消えてよくはれたうららかな日和でした。

(1) 『なまはげ』の話

録音日時 1967年2月26日
(同9月3日臨地検討)
録音場所 秋田県男鹿市藤本大倉
吉田直彦 氏宅

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居)	(住)	(姓)
N	吉田ナツ	女	明治22年生	農業		藤本だけ	
R	安藤リワ	♀	タ 17年生	♂			

解説：男鹿半島の、今では広く宣伝されている、『なまはげ』(namahage)の行事を話し合っている。昔の『なまはげ』を回想して今のそれと比較して、昔のは(a g-wā re)で(okkanegatta)が、今はそうではなく、それに餌や酒などよりもむしろ猿(dgenit)を欲しがっているなど話して、御代も変わらぬ『なまはげ』も来るもんだとやや嘆嘆している風情。

N namahāge - da ba hontone u-u-u-qte anoadari a(r)a-
ナマハグは、ほんとに クワクって あのあだり。
geba ora ema-dēmo daqkirado omou-dena, sono
歩くと 今でも ダッキラと 思うよな、すぐその
(ドキッ)
adarisa kitaga-do omote.
あたりへ 来たかと 思って。

R ore-no masako-gada daqte emademo oqkanə
うちの 正子など だって、今でも こわい
oqkanəqte jūdōmo, un kono ojanatē-gara
悪いと いうけれど うん 子供の 現になってから
sje-ba namahāge oqkanəqte kagureru hito
それなら ナマハグ こわいといって 駆れる 人
dogo-ni eruqte.
どこに いるって。

N s o n - d e n m .
そうでない。

R u n ↗
うん↗ (ケゲンな面持)↗上界體
後語

N s o n - d e n m , o r e - n o k o d o r a g a d a - d a q t e , a n o n a n -
そうでない。 オレの家の 子供たちだって。 あの なん
d a m o n o , k o n d a k ō d o k u s i r a k a g u r e n e - d e e r e -
だもの。 こんど こそ 風れないで いろ
だたらいいかちょっとよどむとき(コロバ)
j o q t e j u g b a k o n d a - h a k a g u r e n e d e - n a n k a e q t e ,
よって いえば こんどは 風れないよなんか 言って、

N d a t a q t e k e b a j a p a r i o o k a n e g a r u - m o n o - n a .
それでも、 (アマガ) やっぱり 前がるものなあ。
くれば

R 笑

N o r e - n o m a s a j u g i - d a q t e , s j e - b a ā n d a n o k o n d a -
うちの 正之だって。 そんなら ああだの こうだ
n o e w a r e r u j o r i o r a h a h a j e g u k a g u r e r u - d a q t e .
の 言われるより オラア 早く 風れると言つて。
(俺)

(不分明), k a g u r e d a m o n d a . s i t a b a , k o n d o j a q -
…………… 風れた もんだ。 そしたら こんど やっ
p a r i m a s a j u g i e d a g a , m a s a j u g i e d a g a , b e n k j o
ぱり ナマゲ「正之」 いるか。 正之 やるか。 効強

s u r u g a , s a n e g a , (笑) k o n d a s o g o r a - a d a r i
するか しかいか」 (ともれると こんどは そこらあたり
こわがつて)
h a s j e d e a r a q t e n a m o k a n m o n a r a n e - m o n o n a ,
走って あるいは どうも ならないものねえ。

R o r e - n o o d e - d a q t e m o , c i q c i m d o g i , a n o a e d a q -
うちの 親仁だって。 小さい 時。 あの あいだ。
(Rの息子)
t a d m , a n o z i n z o - n i k a g a q t e n e d e a q t e - m o n o .
だけ。 あの 胃臓(病)に かかって 寝て おったもの。

N n . n .
んんん

R s i t a b a k o n d o n e d e d e , n a m a h a g e k i t a m a m a - d j a
したら こんど 寝ていて ナマハゲ 着たままで

u d a e a n t e g a n e
むさぐるしいので
~アンシガホは理由表現

N h o n t o n e s o - j u - m o n d e a q t a .
ほんとに そう いう もんで あった。

R a - j a , s o s t e a g u d u m n e n t e g a n e g o m e n s i t e
うん。 そうだ。 そして、 おとなしく するから 錆免して

k e r e q t e .
くれといつて。

N s j e b a k o n d o g o m e n s i t e k e r e q t e w a g i n o m o n o -
すると、 こんど 錆免 して くださいと言つて 例の 人

g a d a e q s i o k e n m e f u q p a t e a r a q t e < R s a g e
たちらむ 一一所願 引っ張って 歩いて 座

n o m a s j e d e > s a g e n o m a s j e d e n a < R m o g + d a s i -
欲ませて 酒を 欲ませてねえ 酒を 出し

t e >
t e >

N n a m a h a g e d o g o - g a r a k i t a b a j a q t e b a o e d a r a - n o
ナマハゲよ どこから 米たかというと 大平の
s a n k i c i d - d a . k a d a - n o s u g a w a d a q t e j a q t o g a
三吉だ。 潟の 氷を 流って やっとか

k i t a q t e n a .
米たといつてね。

R n d a n t e
そうだ。

N o e d a r a - n o s a n k i c i d a n o q t e k i g a n e (a n d a) .
大平の 三吉などいって きかないもんだ。

R (何か低声でつぶやく)

N e m a - n o n a m a h a g e - d a b a a g u d u m - n e .
今の ナマハゲは おとなしい

R u-n
うん

N nāmo oqkanēgūnā, sōsite sjeba futogēri-jōri
少しも 怖ろしくない そして すると 一通しか

kōnā monda mono.
来ない もんだ もの。

R ndana.
そうだ。

N modo migumi kitajagu sjeba,
以前は 三組 来たのに、 すると、

R migumi futogēri-jōri konnante kifumō futa
三組 一通しか 来ないから 寄付も 一通
gori-buri orisō-no ug dasitejara.
ぶん オレの うち ちは 寄付したよ。

N aie māda māda q-deqko dasita. mogt-daba
うん まだ まだ 訓教 出した。 解は
dasate ja nang.
出して やらない。

R mogt eranqte ju mono, sjeba, kane-bari
解は いらないと いう もの、 すると、 金ばかり
hosigaqte nasto
はしがって 何と

N ema mijo kawaqte koeba namahā be-made kawaq-
今、 時世が 変って くると ナマハまで 変つ
te,
て、

R ndaja.
そうだ。

N kondō, futagēri migumi arugu jaq kondo fu-
こんど、 二通 三通と 歩くのを、 こんど、 一
togaeri-ni siru monda-mōno.
通に する もんだもの。

(2) 鳥 口 の 話

録音日時 1967年2月26日
録音場所 秋田県男鹿市森本大倉
吉田連雀 氏宅

話手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居住)	(歴)
N	吉田ナツ	女	明治22年生	農業	脇本だけ	
R	安藤リワ	女	17年生	女	女	
S	吉田家主様	男		女	女	
H	北条忠雄	(聞き手編者)				

解説： <鳥口>についての質問対話。いわば共通語の日方言N・Rとの対話ということになるが、方言側がN・Rと、それにSも加わっているので、それにHが方言をかなり理解するとも(N・R・Sが)考へているので、N・Rの<話しことば>は方言とまざり考へても支障はない。内容はダオ(朱雀トキ)から、フクロ・ミミヅクに及んでいる。フクロウをこのあたりで<フクロウ>ということが見えている。

H so:suru-to, dao no kuruno-wa, nawasiro-e ori-
そうすると タオ の くるのは 曙代へ オリ
(牛振の方言)
ru koro kuru waker-desjo:ka.
る 頭 くる わけでしょか。

N nantoga-nandaga ora wagara-ne, wagaran-e-domo
どんなものやら オラ わからない 分らなければど(とにかく)

harusagi-ni nane-ba konnante-ne, nawasiro-daba ha-
春先に ならなければ 春ないではない? 春代は 春

rusagi-ni nareba kagaromo, ora emi-daba s+rangan-ta-ja.
先に なれば 仕事にとりかかるもの。 オラ 意味は 知らないんだや。(トキそのものの本体ほどの意味)

H sa: dao-wa mita kodo nae wake-desu-ne.
さあ、 タオは みた こと ない わけですね。

N N da.
R そだ。

N ga n - no q N da (mo) da - ba ja q pa modo - daba kitata -
雁の ようなものは やっぱり 以前は 来たけ
ta q te, konogoro - daba ga s - mo ko - naegun e?
れど このごろは 雁も 来ないではない?

R N da N da.
そだ、そだ。

H fuguro - nado orimasuka.
フクロなど ありますか。

R ha e fuguro - daba emas u.
はい フクロは います。

N N da.
そだ。 (Rの<はい、フクロはいます>に相槌を打った)

H mimidzugu - wa?
ミミズクは?

N mimidzugu - q te j adz u - sje fuguro - no ko q te
ミミズクと いうのは フクロの ことでは
n e g a .
ないかね。

S c i g a u.
違う (小さい声)。
低い

N so · ga, c i g a u - g a e.
そうか。 ちがうかね。

S fuguro - no do - sa mimi c uder u. (このあたりEへの応答でなく
(ミミズクはフクロの 所へ 耳が 付いている。 お互いの系語的なものため低
声ではっきり聞き取りがたいものもあるが大体こんなところであろう)

N h on t o n e - g a.
そうか。

R da q te, fugurogu - daba ne go q ko - no ce ra q ko mid e n -
でも フログ(方言)は 猫の 頭 みたい

da j adzu - de - n e .
なものでない?
(急用)

N mimi q ko c u de - g a.
耳 付いてか。

R u N .
うん(そうだ)

N da q te sore - sje mimidzugu - da ko (q) te, s tara -
だって それ みみづくだ ことよ。 したらよ

f u . ora fugurogu 'ho : se N q te nagu and ab a ki : -
(<耳がついていたら>の気持)。

der u ta q te - na.
している けれどなあ。

R ne go q ko - do hito cu - da - go q ta.
猫と (まるで)おなじだ。

N ho se N q te ju e ba sora eg u narus t , 'ho ho ' q te
ホーセンって いえば 天気が よく なるし, ホーホーって

ju e ba ame furu q te naja.
いえば 雨が 降るって いうな。

R u N .
うん(そうだ)。

N so · ju - de nm , 'nor i c u ke ho - ho 'te - ba ame furu - q -
そういうで? ノリツケ ホーホーティーれば 雨が 降るっ

te ju - s q , 'nor i c u ke ho · sje 'q te ba sora eg u
て いうし ノリツケ ホージェッティーれば 天気が よく

nar u q te (笑声)。
なるって……。

【3】訪問の対話

録音日時 1967年2月26日
録音場所 秋田県男鹿市森本大倉
吉田迎歌兵宅

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住歴)
N 吉田ナツ 女 明治22年生 農業 森本だけ
R 安藤リワ ♀ 17年生 ♀ ♀

解説：既にRがNを訪問。話ははすまず簡単な内容で終わっている。

N b-a-b-a e da e s-w-k-a.
婆！ いたかね。

R h-a-e.
はい(いるよ)

N s-t-m-a-q-t-a-g-a-h-a.
(ごはん)終ったかね。

R a.
はい。

N o-e-d-a-q-k-e m-a-d-a (e-n) w-a-k-o-m-o a-r-a-w-a-n-e d-o-m-o o-m-a-e
オレなら まだ お椀も 洗わないけれど お前

s-a-a-s-w-n-i k-i-t-a-e.
のところへ遊びに来たよ。

R j-o-g-u k-i-t-a-n-e s-i-m-a-d-z-u a-g-a-q-t-e k-u-n-a-n-s-j-e(q-te-j-u-q-
よく 来たね ます 上って ください(ってこんな風に言
t-e-g-w).
います。

N u-n o-m-e-n-o a-g-a-c-j-a-n m-a-d-a o-q-k-i-g-u n-a-q-t-a-j-o.
うん お前の 亦ちゃん また 大きく なかったね。

R k-o-n-o-k-r-a-e n-a-q-t-a(j)e, n-a-n-t-o a-g-u-d-e-s-de n-a-m-o k-a-n-
このくらい なったよ。 なんと わんはくで どうも
m-o n-a-r-a-n-e.
ならない。

N n-d-a., h-a-q-t-e a-r-u-g-u k-o-d-e-h-a.
そうだ。 這って 歩く こっちろうね。

R n- a-n-d-e a-r-u-g-u-h-a.
ン (這わないで)歩いて(立って)歩くよ。

N o-m-o-n-o k-a-s-a n-mo j-a-m-a-s-a e-q-t-a-g-w.
お前の 妻さんも 山へ 行ったかね。

R e-g-a-n-e.
行かない。

N u-n e-n-a.
ブラン いいなあ。

【4】〈昔は苦労した〉という話

録音日時 1967年2月26日
録音場所 秋田県男鹿市森本大倉
吉田迎歌兵宅

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住歴)
N 吉田ナツ 女 明治22年生 農業 森本だけ
R 安藤リワ ♀ 17年生 ♀ ♀

解説：二人の老婆がしみじみと語り合っている。昔と今とをくらべ昔の農業の容易でなかったことが、今の状態とひきくらべられて、具体的に語られていて、それに昔のシケのさびしさと今の安易さあるいは放縱さというかそういうものも言い及んでいて、まことに胸を打つものがある。さらに特徴したのは、この苦労した老婆が倒れなくなった今いかにも生きていることがお笑止感という気持ちで生きていることである。この対話は老婆二人が低い声で話し合ひはじめ

たのを——老婆たちはこんなのは静音されていないと考えていたらしい——静音したもので眞実の胸にあるものを吐露した対話である。

R n a n t o j q p a r i w a g e m o n o ' d a b a w a g w k y t e s j e b a
なんと やはり (若いものは) 若くて(若い時) ずいぶん

n a n b o k u r o s + t a m o a d e n s o r e .
ずいぶん 苦労したが その筋がないよ オレは。

N n a n t o s + t e , k o n o b a b a n a n t e c i t o b a r i k u r o s + t a
何として。この 婆など 少しばかり 苦労した

h i t o - d e n s . s o (s) + t e s o r a h a s t + e p o n · t a j o q t a -
人でない! そして それ 答 一本 (他)にたよっ

d e - w a g e n a g u k a m a d o m o q t e e m a n a r e b a n a n i
たというわけでもなく 家を 持って 今に なれば 何一つ

n e d e k o d o n a g u a . j a q t e k u r a s + t e r u - m o n o .
ないという こともなく ああ やって (立派に)暮しているもの。

k o n o h i t o - n o d a e - n i k a m a d o k o s + r a d o n d e u n t e
この 人の 代に 家(財産)を こしらえたんで ほんとに

n a n g i s i t a h i t o d a .
難儀 した 人大だ。

R o r a e m a - d a b a s o n o k a n z j o n e . n a n m o s a n s - t e -
オラ 今なら そんな つもり ない。何も しなくて
(勘定)
m o a s u n d e r a r u n d a .
も 遊んでいられるもの。

N n d a e n a . a s u n d e .
そうだよな、遊んで。

R n .
んー。

N k u d a g e d a e .
食うだけだね。

R s o r e - d e m o o r e e - n o k i j o s + - d a k e , b a b a m o . n i -
それでも うちの 清なら(は) 婆 もう二

n e n s i n a n s + d e k e r e j a - t e j u m o n d a .
年は 死なないで 貧れやと 言うもんだ。

N n .
んー。

R e m a - d a k j e s + n o d a k j e t a c h e n d w q t e j u - m o n d e .
今(は) 死のうなら 大変だって いうもん

N m a s s o g a .
私か?

R N . k o h o r e . N k a d e d e m o r a u q t e g a .
んー、子よ、ほれ。 かでで (世話を)もうというのか。

R n .
ん。

R d a k j e , a j a (a n n a m o n h i c u j o d e) , e g i d e r a j w q t e .
まあ (なにが必要で) 生きてるのかって

N e g i d e r a - j a d z e w a r i g o d o n e w a j a . k w a s s i e r u .
生きているの わるいこと ないよ。 食わせ(してくれる)る

h i t o s j e b a e g i d e r e q t e j u k o q t a b a n a n b o - d e m o .
人(それなら) 生きていると いうのなら オラ(危いくとも

e g i r a .
生きるよ。

R n a n i . . . e m a d a k e s j e - b a m a m a s j a q t o n i z j n .
などに、 今なら (すると) 質 サーと 二杯も
(少し形容)

a r e - b a e g i d e r a r u m o n o .
あれ? 生きてられる もの。

R . . . n a n i a n m a r i n a g a g u e g i d e r u j a d z u - m o .
……などに あんまり 長く 生きてる もの

e g u n e d e g .
よくないよ。

N u n .
うんー

R a n m a r i n a g a g u e g i d e r w - m o e g u n e m o n d a .
あんまり 長く 生きてるもの よくないもんだ(いいもんでもない)よ。

N daqte s̄igadana n̄a.
だつて 仕方ないよ。

R aja s̄inu daqte sinaren esinaja.
ああ、死ぬといったって 死なれないしな。

N...wagaw mono-n̄e c̄ito-ando sasjeretataqte egip
若い 者に 安堵させろといつても 生き

deru mono nanto s̄ite, oranaka futaridzure-
ている ものを 何と するって、オラなんか 二人連れで

de jaga naqter-domo.
危介に なってるんだが。

R esogas̄t dogi-daba so-ju-taqte kondo horje
急がしい 時なら そういっても こんど それ

s̄t godo negu naqte nareba kondo jaqpari
仕事が なく (なって) なれば こんど やっぱり

konda s̄joside.....
こんどは 笑止(恥ずかしく)で.....

N sjosi-to omoeba sjosi-s̄i, ora-naante do-se
笑止だと 思えば 美止だし、 オラなんて どうせ

nani..... koremademo asubdemo edabes̄i, ku-dā-
なぁに これまで 遊んでいたわでもないし 会うだ

ge-no kodo s̄tandamo, nani. ema-mi jo-daba
けの こと したんだもの。 なに。 今時では

ta-mo kaw-e-ne-s̄i jama-mo kaw-e-ne-taqte, ku-
田も 買えないし 山も 買えなくても 食

ta-kiri-ni suru-tatake, modo s̄je-ba nanto
うだけ 何も出来なくて それなら もとは なんと

nanda mōnde aqtate heba-naja.
どうした もので あったてえ。

R ndaqte.
そうだ。

N ema-daba, nambō hadarada-tataqte ku-ade-ne
今は どんなに 借いたところ 食う アナには

sarene, nandara hitodaqte maruqkiri kikaē-ne
されない、どんな 人だって、 何もかもすっかり。 機械に

bari jaqte-na.
ばかり やってねえ。

R N·
ん

N aja-s̄te omagada ndaeng nenedi ene kogunę
あのようにして お前がた あのように 寂ないで 福 ここに

aqtari, sockoso jorugara joru-made hadaragu-
歩いたり、 それこそ 夜から 夜まで 駆きに

ne aqte. ema no mono-daba dare s̄jeba.
歩いた。 今 の 者なら 誰が そんなことするものか。

R aqja.
そうだ。

N biruma-made ene agede kite, hiruma-kara
屋間まで 福 上げて 来て、 屋間から

kome-n̄e s̄ite simaqte c̄jantō s̄teteru-denaja.
米に じて しまって、 ちやあんと しているよなあ。

R honta un
ほんとだ、 うん。

N ene kara agedaqteba koguni eb̄m.
福 から 上げたといえば もうこくに いいだろう。

R ema-daba e'.....
今は いい(なあ)

N n̄ modo baga-midade aqtadena.
ん。 むかしは まるでバガみたいで あったなあ。

R ndaqte.
そうだねえ。

N mama nde enjō-ne curnde sjogwadzu kurumāde
すっかり 福島に 猛んで、 正月が 来るまで

kagate ene kanagogi moqte koede.
かかって 福を カナコギで こいで。

R hōtōne ano zjogen moqte osu adzu-ne, ano fun-
ほんとに あの ジョゲン で 神ず のに ヒビ
bin jaman naqte-na.
が 山に なってた。

N nda, site kojasite ora-nante ogosjenegaqtadōna,
そうだ。そして、こういうようにしてオレなんて(指を)おこせなかつたな。
(指を屈めておこす所作をする)

R jasume-ba kono te-no naga buru buru buru buru-
休むと この 手の 中 ブル ブル ブル ブル
qte are te kojasite hitogering ogosagne
と、あれ このようにして 一過では おこされなかつた

monde aqadena, ano zjogen.....
もんだったなあ、 あの ジョゲン

N hōtō, komeqko-no zjugohjo-mo fugu-dage
ほんとだ。米の 十五俵も ひくだけ

qne tamere-ba niwa-sa jama-n narudage tamam-
福を ためると 庭に 山に なるくらい たま
qta-monda-dōna ja, kanagogi-nē konda dogi-
ったもんだよなあ、 カナゴギに こいだ時だと。

dabana, sore kondo edisindsi kagaqte tada-de.
それを こんど 一日 かかって たたいで…。

nangi sita-do omoeba eman nare-ba baga-mi-
難儀 したと 思えば 今に なると バカみ

dōda.
たいだ。

R dagte sono torri-dagta (mono),
だって、全くその通りだったもの。

N H.....
ん。

R ema-naste nadzu-mo furimo kudzusita hana-
今は 夏も 冬も 脇下 放

s anede tajama-sa haqtera.
さないで 田や山へ 入ってるよ。

N N.
ん。

R aje-ba emane nawasiro-sa orire-ba as+ horo-
すると、今に 苗代へ おりれば、足を 入
qte-mo < N hōtoda hādasi-ni naqte haetaje.
っても ほんとだ ばだしに なって 入ったよ。

N so(r)e-koso, nawasiro-sa baeru joni naqtara,
それこそ 苗代へ 入る ように なったら、

jome mugō nīgtere-te so eqtatate ema-no
嫁 鳴 逃げろって そう 言ったにしても、今の

mono-da-kjw nanbo nawasiro-sa haetaraqte
者なら どんなに 苗代へ 入ったところで、

fukēba fukē joni togonāgaderadagte hagi < R
深ければ 深い ように トコナガとやらを はき
(特長-特に長いゴム長靴)

Nda> asē-ba asō joni suedengusu-dado nanda-
そだ> 戻れば 戻り ように 水田網とか 何とか

do so ju- jaqē hadē e-sa āgate kita-do omoeba
そう いう ものを はいて 座へ 上って 来たかと 思うと;

asi-mo arawanede, ta-sa eqte kite-mo sono
足も 流れないで 田へ 行って 来ても その

manmān agate hizjako oqte manma kuqterā.
ままに 上って 腿を 折って 仮を 食ってるもの。

< R aja-Nda > ora sjeba ta-sa eqte keba e-no-
うん、そだ > オラ、 すると、 田へ 行って くると 家の

mesa minna hāndaga ni naqte kiru monomāde
前に みんな 神 に なって 着る ものまで

minna oqde kite soete beguda aqū cukede
みんな おいて 来て そして 別なのが つけて、

soete mada oride equqteba mada sore 不分明
そして また おりて いくといえば また それを (離て行った

もんだ)くらいのところ)

Rmugas+ - no mondakenara hontone emano
音の ものなら ほんとに 今

hiton-ni jarasjereba.....
人に やらせれば

N daqte, emagara mireba oradasi jogu jamo
だって、今からみると オラ達は よく 病気を
sanade egideda do omouna.
しないで 生きていたと 思うなあ。

R Nda tegā.
ほんとだ。

N soedemo kono ora sjeba namboga zjō-bune
それでも、この オラ すると、どれほど 丈夫に
degida monnandaga omendano orada-nante hogar
出来た もののなか お前だの オラなど よそ
gara mimmo hitogu moraqta kodo nadene.
がら 見舞 一つ もらった こと ないではないか

R hontaganena.
いわゆもそうだ。

N nanto,cjo sinkic+baba nederaqtiegqte eqta
なんと、 今日 信吉の家(R)の家 痴ているって いった
kodo-mo na-si, mogu-no baba-dano dz+qcia-dano
ことも ないし、 モグの 嫁だの 嫁だの 嫁だのが
(Nの家)

nederaqte
痴ているって

(R) sosa minguko koboreda-dm (N) un ↗
そこへ 水が こぼれたよ うん ↗

(R) minguko koboreda (N) ndaga (R) un
水こ こぼれた そうか うん

soeqta kodo kid a kodo nadene.
そいひた ことは 聞いた ことが ないではないか。

S kida kodo nadene ns-do.
<聞いた こと ないでは ないか>とよ。

R Nda.
そうだ(そのとおりだ)

【5】<謎>よもやま話

録音日時 1967年2月26日
録音場所 秋田県男鹿市鷹木大君
吉田蓮麻氏宅

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居 住)	歴
N	吉田ナヲ	女	明治22年生	農業	日本だけ	
R	安藤リワ	女	17年生	。	。	
S	吉田家主娘	女	40才くらい	。		
K	菊地正信	。	(聞き手 高校教諭)			
H	北条忠雄	。	(聞き手 編著)			

解説： <口のない面>(痴) <削れば削るほど大きくなる>(シェギー小川) <クロベジンジョの力はり>(自在鉤) <ハリのヨエにバシバイドウソル>(蜘蛛) 後二者が発音やアクセントも関係して顎がもつれる。ワンデルなら子持つて生んでることだ。これはウンデルだと80才の老婆はいう。ウムは<縮む>これがまたもつれて愉快である。

N sore-gara sono kugino ne taru-wa tamago.
それから その 口の ない 朝は 鶏。

R 笑

N kēzure-ba kēzureba futegu naru.
削れば 削るほど 太く なる。

R 笑

N ba-ba togedjō.
婆 刻けよ。

R (笑)

S ana
穴

N un
うん

N s j e g i
せきぎ

S ana-mo
穴も。

N k e z u r e b a f u t e g u n a r u n e g a .
削れば 太く なるではないか(なるだろう)

R s j e g i s j e g i
関 関

N k a w a - n o k o t a .
(小)川の ことだ。

K t a s b o - n o - n e .
田園のね。

H ba - k e z u r e b a k e z u r u hodo f u t o g u n a r u .
はあ 削れば 削る ほど 太く なる。

K e - k e z u r e b a k e z u r u hodo f u t o g u n a r u .
えー。別れば 削る ほど 太く なる。

N s o r e d e m a d a j a q t e m o e s w a k a .
それで、まだ しても いいですか。

H e k u r a - d e m o . (N . R . 笑)
いくらでも。

N o g a n + k u n a q t e k u r u - d a , o r a .
おかしく なって くるよ。 オラ(俺)。

◇

◇

N k u r o p e - z i n z j o - n o - c i k a r a b a r i .
クロベジンジの力はり。

R k a n b i .
鉤(自在鉤)。

N s da , s o n o k a n b i - d a .
そうだ その 鉤だ。

H k u r o p e - z i n z j a - d e s u k a .
クロベジンジですか

N k u r o p e - z i n z j o , k u r o p e - z i n z j o - n o c i k a r a b a r i q t e
クロベジンジ、 クロベジンジの 力はりっていうのは。

s o r e f u r o e m o n d a .
それ 古い もんだ。

R m u g a s i - n o m o n d a . a r e a r e a n o k a g i - n o k o t a .
むかしの もんだ。 あれ あれ の 鉤の ことだ。

K k u r o p e q t e k u r o i d e s j o . z i n z j o t e n a z i n z j a - t o .
クロッペとは <黒い>でしょう。 ピンピョというのは <神社>と

o n a z t i m i , z i n z j o t e n a n n o k o t o - d e s u k a .
同じ 意味? ジンジョっていのは 何のことですか?

N z i n z j o q t e b a s o d o n e t a d a q t e r u a r e
ジンジョといえば オラなら 外に 立ってる。 あれ
m a c t - n o z i n z j o - s a m a .
町の 地蔵様。

K z i z o - s a m a n o k o t o - d a n a , k u r o p e - z i n z j o - n o c i k a r a k a -
地蔵様の ことだな。 クロベジンジの 力鉤。

p i .

N c i k a r a b a r i
力はり。(Kのカラカラを前正したもの)

K c i k a r a b a r i , c i k a r a b a r i s o r e g a k a g i - n o k o t o .
力はり。 力はり。 それが 鉤のこと。

H k u r o p e z i n z j o - n o ,
クロベジンジの

N c i k a r a b a r i
力はり

H c i k a r a b a r i q t e d o ' j u ' k o t o - d e s j o .
力はりっていうのは どう いう ことでしょう。

N c i k a r a , c i k a r a c u j o e - d e k o q t a n d a .
力 力が強い といふ ことなんだ。

K k a g i - w a n a n d e m o a g e r u - g a r a c i k a r a c u j o e q t e k o t o .
鉤は なんでも 上げるから 力が強い ということ。

N a-e nandemo.
そう、なんでも(上げるから)

K kurokutene.
黒くてね。

N nandara nabe kagedemo.
どんな 鋸を 悪くても、

K hahau, sono kagi-da-kara-ne, cujoito.
ははんん その 狙だからねえ、 強いと。

N c+qc+jm jag+kagedemo, okki jagu kagedemo.
小さい のを かけても、 大きい のを かけても、

H z+zokagi-desune
ジツカギですね。

N kurope zinzjo-no c+karakahari
クロペ ジンジョの 力はり。

H cikara no cujoeno-o cikarakahari-to juandesuka
力 の 強いのを 力はりと いうんですか。

N u-da
そうだ。

K kotaen-ya z+zoe-kagi-dasune-na
答が <自在角>ですな。

N hari-no joe-ni banba edo underu.
ハリの ヨエに 婦 系 ウンで(い)る。

K hari-no joe-ni banba,
ハリの ヨエに 婦、

N banba edo underu.
妻 系 ウンでる。

H edohari-no joe-ni
系 ハリの ヨエに ↗

N an.
うん。

R kubonata-hae
クモ(蜘蛛)だろう。

N n↗
ん↗

S kubo-no su-dado
クモの 果だ。

R kubo-no s+
クモの 果。

H banba edo
婆 系,

N a-e mugas+daba edo nunus+ta monda monona,
うーん むかしは 糸を 糸を 賊み盗みした ものだ ものなあ、
聞きとれない
-ni. sosite hari-no joe-ni banba edo underu,
…に。 そうして ハリの ヨエに 婦 系 糸 糸 糸 ねんでる、

nazo kagedaanada.
糸を かけたのだ。

H hari-no jome-ni,
ハリの ヨエに,

N joe-ni
ヨエに、

K joeqte ue-no koto, ue-no koto joeqte hacuon
ヨエって <上>のこと, <上>のこと ヨエって 発音

suru,
する。

H naruhodo hari-no joe-ni banba edo ju:
なるほど、 ハリの 上に 婦 糸 ヨウ

N edo underuqté
糸 ウンデルって(いうのだ)

H edonderu↗
イドンデル ↗

K ido nuquerundesube.
糸 カーってんでもう。

N ko-site edo umuqtebaedo umuto jueba.....
こうして、糸 ウムっていえば糸 うむと いえば、

K i do u n d e r u n d e s u n a h a h a N
 糸 ウンデルンですなあ、 ははん。

N n a y a g u n a r a s j e r u e n i k o j o r i k a g e d e H
 長く ならせる ように、こう 箭を かけて
 hah-a. n a r u - b o d o > ja q t a m o d a m o n o .
 はは！ なるほど ゃった ものだ もの。

H h a r i - n o j o e n i b a n b a e d o u n d e r u
 葉(ハリ)の 上(ヨニ)に 優 糸 ワンデル

N e d o u n d e r u q t e - a d a . u n d e r u - d a r a m o g u a n t e g w
 糸 ウンデルっていいうんだ。 ウンデルなら (子)持つ(産んでる)こと

K u n d e r u u n d e r u
 ウンデル、 ウンデル、

N a .
 うん。

K n u - k o d o - n e
 <縫う>ことねえ。

N n . n . n o - g o q t e n e a n d a k o r e .
 ん ん、 <縫う>ことでは ないんだ、 これ。

H c u n a g u k o t o - d e s j o .
 つなぐ ことでしょ。

K (cunāgu koto) ha ha .
 (つなぐ こと) は はあ。

N ç + ne q t e r u j a g u ' d a m o n o , k o .
 ひねってる のもの、 こうして。

H a . c u m u g u k o t o - d a n a
 あ、 <つむぐ> ことだな。

N n a y a g u s e r u - n a d a .
 長く するのだ。

K h a n a y a g u - s u r u - n a
 はあ 長くする(の)だね。

H k u m o - n o - s u d e s u - k a
 クモの糸 ですか。

N n a d a
 そうだ。

H k u n b o - d e s j o .
 クンボでしょ。 (発音についていいう。(kumo)でなく(kubo)だろうという意味)

N a . k u b o .
 うん クンボ

H k u b o - n o - s u
 クンボの糸。

N R
 うん。

【6】弁慶の話

録音日時 1967年2月26日
 録音場所 秋田県男鹿市藤本大倉
 吉田蓮藏氏宅

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居)	住	原
N	吉田ナツ	女	明治22年生	農業	・	藤本	だけ
R	安藤リワ	・	17年生	・	・	・	・
U	吉田源蔵	男	16年生	・	・	・	・
H	北条忠雄	(聞き手 暴者)					

解説： 武蔵坊弁慶そのものの話ではない。弁慶の立往生にさも似たる魚刺具のベンケイである。
 <鰐ノ一本サンドカクテ牛丸ト解ク><マグロ一本挽カケテ牛若丸ト解ク>いずれも心は
 <ベンケイ>が恐れるからだ。このベンケイも、圓炉裡がすたれ電気機器がさかえ、味の素デラ
 いの一番デラがはびこるとなると、それに人の口(クチ)も寄ってジャコなどベンケイ用の小魚
 などに目もくれない時世となっては、もうそのものも名も忘れられつつあり、やがては水没に消
 えてしまう。こんな差命のベンケイについていろいろと語りあってみた。

H a n o b e n k e - q t e n a a r i m a s u (k a) s i q t e o e d e d e s u k a .
あの ベンケイといふのは (言ひなおして) 知つて わいですか。
(ありますか)

N modo-daba benke-qtenaja <R n> baba, ko-jo.
以前なら、 ベンケイといふのは なあ 娘。 こういう

d o s a ... k a y o k o - s a w a r a k o z e p p a r i s j e d e s o -
ところへ瓶に 魚を いっぱい 入れて そ。

s i t e s a y e d e d e k o n o a n b a n i a n b a n a k o n o - g u r e -
して 下げておいて こんな、 具合に、 具合な このくらい

b a r i n i a g e s a y e d e d e s o r e s a k o n d o k u s + s a
ほどに、 ものを 下げておいて、 それへ こんど 串に

s a s i t a s a g a n a z e p p a r i k o - s a s + t e s t a m o n d a
刺した 魚を いっぱい このように 刺した ものだ

m o n o n a . u e s a s a y e d e d e n e g o - k w a n n e t e d o n i .
もの。 上の方に 下げておいて、 猫が 食わない 程度に。

H e m a w a a n m a r i m i e n a e w a g e d e s u k a .
今は あまり 見えない わけですか。

N e m a s o . s a n m a n d a m o n o - n a . a n o r o , r o n e m o n d a
今は そのように しない もんだものなあ。 あの 仍 仍が 無い

m o n o . e r o r i n e - m o n d a m o n o . k u s + s a j a e d e
もんだもの。 田伊裡が 無いもんだ もの。 串に(さして) 繋いで

k u t a s a g a n a - n o e n i n m a g u n e t a t a e r o r i e m a
食った 魚の ように うまくないにしても、 西炉裏 今

e r o r i n e k u t e k u s + s a s a s t e a b u r a n e m o n o n a .
西炉裏が なくて 串に 刺して あぶらないものねえ。

s j e b a k u s + - d e n e - b a n a n i - s t t e s o r e a m i w a d a s i -
すると、 串で なければ、 なにして、 それ アミワタシ

d a n o a n o j a r e s a g a n a j a g i d a n o q t e j a g e b a
だの あの やれ 魚焼きだの いつて、 繋げば

s o r e g e d o - s a t o q t e s t t e k u - m o n o . j o g e n a j a g u
それ 頬戸物へ 取って そして 食うもの。 余分な ものを

m o q t e d e m o d o - n o j o - n i - d a b a a b u r a n e s u n a j a .
持っていて、 もとの ようには あぶらないものねえ。

R a b u r a n e s u .
あぶりません。

N modo-daba s j e b a z j a k o - d e m o n a n d e m o c t k a m e d e
もとなら すると、 小船でも 何でも つかめて

k e b a , b e n k e - m o n a m o k u z u r e a t g e s a s i t e s o s t -
くると、 ベンケイも なにも 崩れるくらい 刺して そし

t e s o r e d a s t - n i t o q t e k u t a m o n d a t a t e , e m a -
て それを ダシに とって 食うた もんだが、 今な

d a k i j o n a n i d a s q t e j u e b a j a g i b o n i - d e r a
ら なまーに ダシと いえば ガギボンだの

d a q t e k o d e n o k o - m i d a n a m o n o s j e d e k u t a t t a
などいったものや 粉みたいな もの入れて 食っている

o r a - m o s i r a n e t a q t e n i b o s + n a n d a g a j a g i b o s i n a -
オラも 知らないが、 ニボシだが ガギボン

n d a g a k a q t e k i t e s o s t e a z i n o m o d o - d e r a - d a q t e
だが 買って 来て そして 味の素とかいって

s j e d e s o s t e k u t a r e r u - d e n a g a .
それをいれて そして 食ってるで ないわ。

U k u z i r a n o i q p i k i z a s i t o k a k e t e n a n t o , t o k u , k o k o r o -
<腹の 一匹刺し> と かけて 何と 解く、 心

w a b e n k e - m o k o m a r u . u s i w a k a m a r u - w a t a i h e n
は <弁慶も 困る>。 牛若丸は 大変

c u j o i - k a r a b e n k e - m o k o m a q t a w a k e - d e s j o . a i t e -
強いから 弁慶も 困った わけでしょう、 相手

p a d e k i n a q t a d e s j o . m a d a s o n o k u z i r a - n o i q -
が できなかつたでしょう。 また その <腹の一

p i k i z a s i - w a k u z i r a - w a o - k i e m o n d e s j o . b e n k e -
匹刺しは 腹は 大きい もんでしょう。 弁慶

w a c i e s a k a q t a d e s j o . d a k a r a k u z i r a - o t o t e m o
は 小さかつたでしょう。 だから、 瓶を 取って

b e n k e - n o n a g a - n i i r e r u k o d o d e g i n a i w a k e -
ベンケイの 中に 入れる こと できない わけ

desu-jo. dakara beNke-mo komaru-to ko-ju-ko-
でしょう。だから ベンケイも 困ると、 こういうこりが

to-desu-ne.
とですね。

H kuzirano epon (K) iopikizasi.
鮓の一本…… 一匹刺し

H eopikizasi-desuka
一匹刺すですか。

U kuzirano iopikizasi-to kakete dasubu.
<鮓の 一匹刺し>と かけて でしょう。

(N) Nda. (K) nanto togū.
そうだ。 何と 解く。

H are hacirogada-no, are doqci kana. hacirogada-
あれ、八郎弱の、 あれ どっち かな。 八郎弱

no doqci-no ho'desitakana. asoko-dewa māgu-
の どっちの 方でしたかな。 あそこでは <マグ

ro-no eponjagi to kakete desitane.
ロ(鮓)の一本筋>と かけて でしたね。

U ha eoga-e.
はあ、 そうかね。

H māguro-no eponjagi-to kagete usiwakamaru-to
<マグロの 一本筋>と かけて 牛若丸と

tokuka. kore-mo, maguro-no eponjagi-mo ben-
解くか。 これも、 マグロの 一本筋も ベン

ke-wa komaru wageda.
ケイは 困る わけだ。

N Nda-na.
そうだな。

H ema benke-nado oeteru uci-wa naqedesjo-ne
今、 ベンケイなど おいてる うちは ないでしょうね。

N Nda. toqte nāgedaha. (笑)
そうだ。 とって 投げてしまった!

H are, ko-kāgo-no tokoroe warao zuqpa i redem
あれ、 こう 龍の ところへ 茅を たくさん いれて……

N Nda.
そだ。 そだ。

H sosite ko-sasumomo arusi, tāda ko-wara-o
そして、 こう 刺すのも あるし、 ただ こう 茅を

((N) māgedege) cjoqto marume-danomo arunzja
(曲げてかね) ちょっと まるめたのも あるでは

nadesuka.
ないですか。

N Nda. kāgoko nmba sosita.
そだ。 龍が なければ そうした。

R (笑声) Nda.
そうした。

N kāgoko kauagute-node (nedemo) ko-karagaede
龍を 買うのでなくて こう からがいで

…sore-demo kekko-sasaqteru mono.
…それでも うまく 刺されている もの。

【7】男鹿地震の話（その一）

録音日時 1967年2月26日

9月3日 地震時

録音場所 秋田県男鹿市脇本大金

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住地)

N 吉田ナツ 女 明治22年生 農業 脇本だけ

R 安藤リワ ♀ ♀ 17年生 ♀ ♀

H 北条忠雄 (聞き手 編者)

解説：もう29年になるという男鹿地震の話。その時の様子がこまかに具体的にいきいきと語

られている。『吉ノ郎サマ、オヤッ 娘！ 地震ダダットイウシ、ナシモカモ、ソシテルウヂニ、
ダワリ グワリ グワリ 落チテジマッテ、ミデルウチニ ソゴノ アノ オンシテノ家 ツブレ
シ、サコンド、善助ノ家ツブレダ、オレノ家デハ カタガタシマッテ アトハナシモカン
セナンネ』」まさに見事な活写である。

H z + s + n - wa e k u c u - k u r a e - n o t o k i - d e s i t a , o b a : s a n .
地獄は いくつくらいの 時でした。 お婆さん。

N z + s + n - g a e . z + s i n a k o d o s t - d e n i z j u s + c + n e n - d a - g a e .
地獄かね。 地獄は (今年) 二十七年だかねえ。

R k u n e n n a r u . k u n e n n a r u .
(二十)九年になる。 九年に なる。

N n i z j u - k u n e n - n i n a q t a g a e h a .
二十九年に なったかねえ。

R n .
うん。

N n d a n a . a n o d o g i a m a d a h i d a g a q t a d a n a .
そうだあ。あのときは また ひどかったなあ。

R o r e - n o h o r a z + s a m a ,
オレの、 ほら、 着さま。

N n i z j u - k u n e n - n i n a q t a
二十九年に なった?

R n d a , n i z j u - k u n e n - n i n a q t a , c j o n e n
そうだ。二十九年に なった。 去年……

N s j e b a , o r e - n o s a b u s j e b a n i z j u - k u - n i n a q t a g a e .
すると、 オレの 三(郎)、 すると、 二十九に なったかねえ。

R o d o d o s i o r e , a e d a - m o n o , n i z j u - s + c i k a (e) d a m o n o .
おとし。 オレ、 あれだもの、 二十七回(品ナラム)だ もの。

H z + s + n - d e n a k u n a q t a k a t a - m o o q t a n - d e s u - k a .
地震で なくなった 方も おったんですか。

N a . s , s o r e s o g o - n o s o b a - n o z j e n n o s u k e - n o n a j a
はい、 それ そこの 側の、 善之助のねえ

z i q c j a e n - n o - s + t a - n i n a g t e s + n d a n e g m .
娘(ヲ)家 下に なって 死んだもの(直訳<死んだではない
が>)。

H b a .
はある。

R o r e - n o t o n a r i - d a .
オレの 隣だ。

N c u b u r e d a e - q t e n a n g e n - m o a q t a e e d e n i c u b u r e -
つぶれだ 家といふと 何軒も ありました。ひどく つぶれ
da e n a .
た 家がねえ。

R n d a . j a q p a r i a n o z + s + n - d e e n o m o n o - m i n n a ,
そだ。 やっぱり あの 地獄で 家の 物みな(つぶれ)
c j o - n o s u k e - n o k o - m o s i n d a b a , f u t a r i - m o s a n n i n -
長之助の 子も 死んだし。 三人も
m o s i n d a n a .
も 死んだ。

H e q g u r o - n a n - d e s u , a n o z i k o k u - w a .
いつごろなんですか。 あの 時刻は。

N f u r o e d a q t a n a n i z + g o r o - d e a q t a n a .
留れたのは 二時ごろで あったな。

R n d a - n a , o r i d e q t e - g a r a - d a m o n o .
そうだな (田園へ)歸つていってからだ もの。

N o r i d e q t e - g a r a - d a m o n o , n i n n i z + g o r o , g o s o - n o
降りつてからだ もの。 二時ごろ 午後の

n i z + g o r o - k a r a n i z i g o r o n i , b a q e t r i n i z + d a d e .
二時ごろから 二時ごろに バッヂリ 二時だという

w a g e - m o n e - s i , < R a - j a > s o r e - j o k a h a j o
わけも ないし < そうだ > それよか 早い

w a g e - d e n e - d o m o , o r a w a g a r a n e d o m o m a n g u
わけでも ないけれど オラ はっきりしないけれど、 ます
(他)

n i z + g o r o d a q t a n a .
二時ごろ だったな。

H o b a:san-nado ta nbo-ni orareta n desuka, n i n z i -
おはあさんなど 田圃に おられたんですか。二時

g o r o .
ごろ。

N are, sore, ta nbo-sa ta - ug + ni e q t e a q t a ,
アレ、ソレ、田圃へ 田を 打ちに 行って あったな。

a d a r i - n o m o n - d a b a .
近所の 人たちは。

R u n d a .
そうだ。

N s + ta - domo ore - n o mu sume - s j e ko mo q t e d e a q t a
けれど、オレの 猫子 子持って いた
mo no - na , waras + mo q t e d e a q t a mo no - s w son de ,
ものなあ、 ワラシ(魚) 持っていて あった もの、 それで、
(赤ん坊)

H a q , o s a N - d e ,
アタ お産で

N ~.
R はい。

H o s a N - d e , k e d o m o - s a N mm a r e - t e o q t a n - d e s u k a .
お産で、子どもさん 生れて おったんですか。

N ~.
R はい。

N s o r e d e s o n o d o g i e q s j u - k a N - m e - d e a q t a mo no - n a .
それで、その 時 一週間で あった ものな。

R u n d a g e .
そうかね。

N u s , so - juu - kodo n e t a t e , ore - n o je - d a b a h i d o -
うん、 そら いう ことが なくとも、 オレの 家なら、 ひど

gu - q d a n d e a q t a mo no - n a ,
く = 僕で いた ものな。

R u n d a .
そだ。

N modo - n o jed a b a k o re - jori zu q t o o q k i gata
もとの 家なら これより ずっと 大きかった
(今家の)

mo no . so n de m a n g u ko ' jo , a nba e - n i na q t a
もの。 それで ます こう いう 具合に なった

mo no - n a , k o g o - s a a d a r i n e j e n e a m a d a r e o c + de -
ものな。 ここへ あがりに 家に 雨垂れが 落ちて
(家のこらあたり、分析的表現)

r u m o n o - y a m a - n o h o - s a c u n o m e q t e , s a n z j a g y u - m o
る ものが 前の 方へ つんのめって、 三尺も

m u g o - s a c u n o m e q t e , s o n o a m a d a r e o c + de a q t a
向こうへ のめって その 雨垂れが 落ちて いた

mo no - n a , s o r e - d a g e k a d a g a q t a mo n d e a q t a n e g a -
ものな。 それくらい 帽むいた ものだから、

n e ja q t o t o d a s i t a - n e - g w , c j a n t o , a n n a k o t a b a
やっと (娘)出したもの もやあんと。 あんなことは、

h o n t o n e n o t o g a s j e b a e - n d a g a a d e n e g a q t a .
ほんとに、 何と すれば いいのか アテが なかた。
(自当)

s o r e , k o n d o t a e h i g o j a - n o k u s o k a d d m e d e d a
それ、 こんど、 堆尾小屋の 基礎 固めていた

d o g o da q t a mo no - n a , < R u - N > j e s t - n o z i - s a m a
ところ だった ものね。 ラーン 吉(田)の 駒移

k i t e , s o e k o n d o s j e m e n n o q t e d e k e d e a q t a
来て、 それ こんど セメン 放って 爲れて いた

mo no - s j e , o r e k o n d a n o q g i h i d e n o q g i h i d e - h a
ものねえ、 オレ こんだ 着い 日で 着い 日で

m a n m a k u q t a b a s o g o t a d e d e q t e k e n g a , a n m a r i
飯 食ったら そこを 隅てていて 畏れないか、 あまり

n o g i a n t e o r e m a , (n e) h i t o n e r i n e r a q t e s o -
暑いから、 オレ まあ 一晩入 痴るよって そろ

j u - s + , a - N d a g a s i t a r a o r e t a d e d e e g a - n a q t e
いやし、 うん そだか それなら オレ 開けて 行くよって

k o g o - s a k o m e s + n a b e k o k a g e r u - b a r i - n i s i t e
ここへ 刺繡錦 かけるばかりに して

kono kagi-sa kagede, sôsîte kura-sa kome
 この 猪に かけて、そして 倉へ 米
 e-jojo a-gede tagade aqtedaba, tagade mo hi-
 一俵 上げて 持って 歩いたら 持って もう、一
 togæri egeba e-baride aqta wage-dana, sono
 過 行けば いいばかりで あった わけだ。その
 dogi, kondo nani sâta mono-na, na-nato jemenu-
 昧 こんど、なに した ものなあ なんと 家前には、
 daba, sore Jesa haeqtekuru-do omoqataba, mne-
 それ 乗へ 入って来ようと 思つたら、悔
 no-gi musjoni ugogu mono-na, sôsiteru ugi-
 の木が 無精に 動く ものな。 そしてる、うち
 ni, josi-no zisama oja ba ba zisñndadægte ju-su,
 に、吉の 騎さま 「おや 感 地獄だと」 いうし
 na-namo kanmo, sôsiteru ugi-ni, gwari gwari
 なにも かも、 そうしてる、 うちに、 グワリ、 グワリ
 gwari gwari oçide sîmaqte, mideru ug-i-ni
 グワリ グワリ 落ちて しまって、 見ている、 うちに、
 sogo-no ano onijo-no je cubureda, sa-kondo
 そこの あの オンジョの 家 つぶれた。 さあ、こんど
 zen-nosuke-no je cubureda, ore-no jedeba
 善之助の 家 つぶれた。 オレの 家は
 kadagaqte sîmata ado-ha namo kanmo nanne.
 相もいて しまって、 あともう どうも こうも ならない。

18] 男鹿地震の話(その二)

総音日時 1967年2月26日
 (同年 9月3日 臨地検討)
 録音場所 秋田県男鹿市藤本大倉

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居住地)
N	吉田ナツ	女	明治22年生	農業	脇本だけ
R	安藤リツ	女	17年生	※	※
H	北条忠雄	（聞き手 編者）			

解説：〔7〕につづくもの。テープの都合で一連続のものを〔7〕と〔8〕とにわけた。産後一週間目赤ん坊を抱いて寝床にいた娘さんを下した母親(今の老婆)の愛情が胸を打つ。
 <デハテ(外に出て)死ヌヨリ病床デ死シハエギタ>外に出てもながあぶなかった涼箪を振る言葉である。最後の詰め、ホントネ(に)アングラ オッカキナメニ アクコモアルモンダネガ。トダスは<出す>こと。<取り出す>から。ダスはこの地帯で共通語のヤル(与える)意味に用いているので、ダスはトダスという。秋田一般はクレルもヤルもともに<ケル>である。

N ande aqgu-mo na-namo narankute, je-sa haqte
 歩いても うまく どうも 歩けなくて 家へ 入って
 kuro-do ombqtaba, mododaba kue nna niwa-no
 来ようと 思つたら、 以前は 朝は みんな ニワ(土間)の
 haru-sa a-gede e-daqta mono-na <R bda>
 葵へ 上げて わいたものなあ そうだ
 tara-do, tara-s-^tju-mo gôzju-mo ande a-gede
 俵と(いっしに)。 俵 四十も 五十も 握んで あげて
 aqta aqgu-mo maroqkiri oqsi-te sîmata, je-sa
 あった のも すっかり 落ちて しまって 家の中へ
 haqte koraene-mono-na. <R un. > na-sini haqte
 入って これらいのな。 うん。 なにに 入って
 egugte, ema je cubureru dogo-da, haqte egu-
 いくってえ、 今 家 つぶれる ところだ 入って 行く

naqte. oja, ogijo nededa mono nanto-sute
 な」ってえ。「おや、お千代が「寝ている もの」なんとして、
 sore-daba e ganeban neqte sogo-gara haqte
 それは 行かなければならぬ」と いって 入って
 kuru-taqte korarene mono-na. <R uN> so ju.
 くるといつても こられない ものなあ。 <R uN> そ う いう
 mondadate kondo koqcino ho-no amado-gara
 もんでも こんど こっちの 方の 戸戸から
 kondo soe amado-mo kondai-ko naqta-ba agarar-
 こんど それ 戸戸も こんどは こう なったら 開か
 nebbe. <R uN> sore-de kondo jabus-te sosite
 ないだろ。 <R uN> それで こんど 故って そして
 nedogō-sa egte fugpakte kita monda. sono ko
 痘床へ 行って ひっぱって 来た もんだ。 その 子
 hitori dagasjede kondo, sono cianto, konda
 ひとり ひかせて こんど その ちゃあんと、こんどは
 sora nanboga naqta mondabeka, modo-daba nī-
 それ どれほどに なった もんどうか、もとなら 二
 zjuegnis+ dogasane monde aqta mono-na.
 +日(間) (寝床を)逃さない もんで あった ものなあ。
 <R uN> kondō nantomo naransi, soe tōdasi-
 こんどは どうも ならないし、それを出し
 te kitaba kogo-no loga-no mama mada emadaba
 て 来たら この 間(屋)が また 今なら
 ko hi roe-domo sono mama izu-qto konda kūzurede
 こう 強いかれど その ベケが 「ずっと こんどは 崩れて
 kita mōnda. benzjo-do je-do kondo ko cugu-
 いた もんだ。 便所と 厠と こんど こう くっつく
 i pndage un poguacgha, nantomo kantom, ore sjeba
 くらいに 動くのだよ。 なんとも かんとも 「オレ すると
 de hate kite s̄nu-andagwqte ju. mono-na.
 出て 来て 「死ぬのだ」 と いう ものな。

<R. uN> de hate kite s̄nu-andab a nedogō-ni
 うん。 「出て 来て 死ぬのなら 痘床に
 ede s̄nnda ho egaqta-dēqte so ju'si, sitadomo
 いて 死んだ 方が よかったよ」と そう いうしき だが、
 māngu māngu dogo-sa curede egeba e'N-dero-to
 まず まず どこへ 通れて 行けば よかろうかと
 eqtakijō mancu ma kongukm-no kiso-no naga
 言ったら、 まず まあ 痘瘍の 基盤の中
 kadamaqteran tegani kogo-sa cere-de koe(qte)...
 面まっているから ここへ つれて 来(って)....
 sōsute kondo sono soqkara kondā-nō nōn
 そうして こんど その そこから こんどは グン グン
 non-do hasjede aqte tara go-hjo-mo san-bjo-mo
 グンと 走って 歩いて 猿 五枚も 三枚も
 māngu hagon-de sjeba s̄de nemarasjede side
 まず 遊んで、 すると (それを)聞いて 坐らせ歌いて
 nemarasjedataqte māda harusagi-de s̄abis+,
 坐らせても まだ 春先のことで 寒いし、
 futon-mo n̄ba nāmo nkute, māda, soe sono
 涼床も 無いし 何も 無くて また それ その
 ogu-no ho-gara kondo jesa epte nemagi moqte
 猿の 方から こんど 家へ 行って 痘巻 持って
 kite sosite kondo sogosa futon tāgadeqte-na
 来て そして こんど そこへ 涼床 持って行ってな
 <R. uN> hitobange konda sogo-sa ko dāgi,
 うん。 一晩寝 こんどは そこへ 子 抱き、
 nde s̄mi-nō enda agu kaqtaāgu sodō-no hija-
 そして 猿の 産な もの 買ったのを 外の 痘
 si-sa āpede aqta aqe sore nna maguredē kitai-
 あげて あったの それが みな ころげて 来た
 si, ore tāgade aqta kome jesa moqte konede
 し オレ 持って 歩いた 米 家へ 持って 来ないで

sodo-ni arus+ hore, konda koq+gara moqte
 外に あるし。それ。こんどは こちから 持って
 (eta) kemes+nabe jaqtoga tagade kite sicire-
 (いたた) 热飯鍋 やっと 持って 来て 七輪
 n-do tagade kite soete kondo sodo aqkone ede
 と 持って 来て そして こんど 外、あそこに いて
 ma Nma teda wage-ja. <R n-daga> sosite
 飯 飲いた わけ。 そうか そして
 kondo kmes+nide ma Nma kwassejde soe mo ha-
 こんど 热飯 煮て ごはんを 食わせる。 それも ハア
 maguri c+kagumo narus+. 不分明な。
 祀 近くも なるし。 なあ。 <R uN>
 tonari-no legara morsaqtarisita agu sosite
 隣の 家から 貰ったり した の、 そして
 jade oede aqtaagu jaq+, kondo ma ma ha-
 繋いで 蓋いて あったの。 こんど まあ まあ ハア
 naniga nusundo midmeni s+te koq+gara mawaqte
 まるで何か 盗人 みたいに して こちから 罷って
 ete kondo todana-gara tagante aqte ni-de
 行って、こんど 戸棚から 持って 歩いて 来て
 ma Nma sosite kondo ma Nma kwassejde, hitobange
 ごはん そして こんど ごはんを 食わせる。 一晩げ
 soni ede sono nanda ~ndo n~borogaqte qutata-
 そこに いて、その なんだ、井戸が 流って いりゆ
 te ~endogara man+gu ma m~nzu kunde manma ta-
 井戸から まず まあ 水を 倒んで ごはん 炊
 de jagimesi-nikite, manma tade jagimesi-niki-
 いて 热飯を握って ごはん 煙いて 热飯握って。
 te, e+aq+jm n~beko-dan damono-na. <R uN>
 小さい 鍋なのだものなあ。 うん。
 sit+te, soe kondo nna santo nanto s+taqte
 そして それ。 こんど みんな 産人(なんらか)なんと したって
 (俺) うん。

mura gju-no mono kurubae. <R nta> na.. nanto
 村中の 人が くるだろ そうだ なあ。 「どう
 s+ta, nanto s+taqte sono na nno kuru mono.
 した。 どう した」とって その なんの、 くる。 もの。
 sjonbo-gada-gara mura-no hitogada nna santo
 消防がたから 村の 人たち みんな 産人
 nanto s+state kite kerus+, sore ma~gu santo-mo
 何と したって 来て 負れるし、 それ まず 産人も
 na Nmo e+ante jagimesi+keqte, na Ncjiu:gorri
 何も ない(無駄)から 热飯 烹えといふわけだ。何十遍(となく)
 joqta monda <R n da> naN: qjugorri-demo joru.
 繕った もんだ。 そうだ。 何十遍で 稲る。
 monda monona <R na-Nto s+te> nde sjeba ae
 もんだ ものなあ。 なあんと して。 それで、すると、あれ
 he+ba hitobange-ni sangju-na nbo-gorri-daba joqta-
 すると、一晩げに 三十何遍は 稲る。
 takena <R n>
 けなあ。 ん。
 hon tone, andarao qkanomeni aukodo-mo arumon-
 ほんとうに、 あんな 恐ろしい目に あうことあるもん
 dane ga.
 ではないかね。

[9] お屋の対話

録音日時 1967年2月26日
 録音場所 秋田県男鹿市葛本大倉

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居住地)
N	吉田ナフ	女	明治22年生	農業	日本だけ
U	吉田選蔵	男	16年生		*
K	菊地正信			(聞き手 高校教諭)	
H	北条忠雄			(聞き手 編者)	

解説：録音中にお昼になり、昼食のご馳走にあづかった。

これは、その昼食中のままの対話である。実はこの対話録音を特に注目したのは、話中に出る
<z+nōsi+teranādēra>という語句-表現が見えるからである。秋田のよそなら普通
<z+nōsi+teranādabe><z+nōsi+teranādabue>などなるところ。

N...go hā nobe de
ご飯を だして(ください)

K ija takusan ado korede zju-bun-desu
いや、たくさん もう これで 十分です。

U juukuri aga te
ゆくくり 上って(ください)。

N sje nje sore z+nōi s+teru jodanādēra
先生！ それ 遠慮 しているのでしょうか。

K e q ↗
えっ↗

N z+nōi s+teru jodanādēra
遠慮 しているのだろうてえ。

K z+nōi s+terā ↗ nante imidesuka
ジンギ レテラ 何という 意味ですか

N enrjo-s+teru-de ju: kodo
遠慮してると いう こと。

K na nno enrjo-site nai zju-bun onaga iq pda.
何の 遠慮して ない 十分 おなか いっぽい。

sense-anō z+nōi-siteraqte enrjositeru de ju-
先生 あの ジンギシテルって 遠慮したこと いい

suka so ju-subeg a.
ますか。 そう いうでしょか。

H e ei ju-desune.
え えー 言いますね。

K ora hā zimedē kida kore
オラ、はじめ聞いた、これ。

N agi reda mondane.
あされた もんだねえ。

[10] おじいさんとおばあさんの喉

収音日時 1967年2月26日
録音場所 秋田縣男鹿市藤本大倉

話手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居)	(住)	(歴)
U	吉田運蔵	男	明治16年生	農業	島本	だけ	
N	吉田ナツ	女	22年生	タ			

解説：おじいさんの例は<脇本は火事で二度焼けたが三度焼けたらそれこそどうにもならぬ>という趣旨だが、どういう時調うのか聞きもらした。お婆さんは、白引歌のよし。じいさんのも或はそんな時のものか。

(イ) おじいさんの喉

U wagimodo-wa nan-no bagu-jara nido jageda.
脇本は 何の 罷やら 二度 焼けた。

sando jageda, sando jagedara nodadzene-dia.
三度 焼けた、三度 焼けたら 容易でない。

a: jagedara sando jagedara nodadzene-dia.
あー 焼けたら 三度 焼けたら たいへんだ。

jado na:
ヤード ナー

(ロ) おばあさんの喉

N sābukāze-no gori nābāne-no: (tona) edosusugi
寒風の 五輪長家の (とな) 糸薄

edosusugi ūma-ni cukedemo jura jurardo:
糸すき 馬に 付けても ゆら ゆらと

(cūzugane anda) masaga cuke-demo jura jura-do
つづかないのだ 馬に つけても ゆら ゆらと
—自分の声のこと—

ja:to:na: koju udada.
ヤート ナー こういう 歌だ。

【11】餅のかぞえ歌

録音日時 1967年2月26日
録音場所 秋田県男鹿市根本大倉

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住歴)
N 吉田ナツ 女 明治22年生 農業 誓本だけ

- 解説： 1. フツグーフグダモヂ 6. ハツグーミヤゲモヂ
2. フタツナリダ・モヂ 7. ナナツジヨニモヂ
3. ミツツミソツケンボンモヂ 8. ヤツクカザリモヂ
4. ヨツツアソブキモヂ 9. コノゾオガノモヂ
5. イツツアスリモヂ 10. オトセンキモヂ

どうもモヂをついた、本物のモヂでいいのもううだ。以上このままで続かないものあるが、それはここでは無わたしのことを省いたから。例えば、フタク フウツ ナリダモヂということよう。

N futogu fugureda fuguda-mo⁺. futaque fu-fu-no
一つ 煙れた ふくだ餅 二つ 夫婦の

nari damo⁺. mi que miso-cuke taipo-mo⁺ dae.
なり餅 三つ 黑豆餅 たんぱ餅(だよ)

jō que jō aore-da adz ugi mo⁺. e gue⁺ es jādo-no
四つ 汚れだ 小豆餅 五つ 医者殿の

kusurimo⁺ mu que musume-no mija-e-mo⁺.
くすり餅 六つ 醫の みやげ餅

nana⁺ hanakusa zjō-nimo⁺. ja que ja səg i-no
七つ 七草 韶葱餅 八つ 原家

kāzari-mo⁺. kogonogu konojeno oganomo⁺.
飾り餅 九つ この家の おがの餅

to-ni tosorino senkimego⁺, nāda.
十に 年寄りの せんきめ, なんだ。

【12】若い時の話 ちょっぴり

—夫婦仲よくかせいしたこと—

録音日時 1967年2月26日
録音場所 秋田県男鹿市根本大倉

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住歴)
N 吉田ナツ 女 明治22年生 農業 誓本だけ

解説： 職名の如くしかり。

しかし、ちょっと。田へも山へも巣にゆくのをすべてオリと言い、帰宅一事から帰ることをアガルということ、この短い中にあらわれている。

N ore-daba jama-sa' oride egutte jueba, ie-no
俺は 山へ オリて いくと いえば、 家の
naga kadaguke-de, soqte to tade-de to sime-de
中を かつて そして 戸を たてて 戸を 被めて
egote, jēsa kiti ma nā-no sitagu site kuta
いって 家へ 来て 飯の 支度を して 食った
monda-mon, wak⁺ uč+na, s je ba, ore-no dz+qja
ものだもの。 若い うちは。 すると、 うちの 爺は
mada agaqte-gara kondo tamawari gurutto site
また (田から)上ってから 今度 田廻り グルッと して
sosate kuru-aanda mon.
そして くるのだ もの。
K' baha-tan tamawari site kuru wage-ne,
ハハターン 田廻り して くる わけねえ。

N s o s t e j e s a k t e m a m a k u a n d a - m o n o - n a . s o n o
そして 家へ 来て 飯 食うのものなあ。 その

t a m e - n i d o q c i - m o e s o g a s + a c e - d a m o n o - n a .
ために どちらも いそがしい のだ ものなあ。

【13】やづのめ

—一つの花に実が八つなる梅の話コ—

録音日時 1967年2月26日
録音場所 秋田県男鹿市認本大倉
吉田運転宅

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住 聞)

N 吉田ナツ 女 明治22年生 農業 農木だけ

R 安藤リワ ♀ ♀ 17年生 ♀

K 稲地正信 (聞き手 高校教諭)

解説：一つの花で実が八つなる梅——オラ(能)食ったこともないし、なってらごみたこと
もがいかがたしかにあると信じている話。話し手のアルデゲ(←アルドガエ(arudogaē))に
対して歌手が<アルデゲウ>と理解したのに、<アルド、ハッキリアルンダ>と力を張って言
っているのがコトバの上でももしろい。ガエに対する歌手の誤解である。

N s o r e - g a r a s o g o - n o s a d o - s a n - n o j e - n i - m o , ū m e b a j a -
それからそこ 佐藤さんの 家にも 梅林

s + a q t a s e n a . e m a - d e m o k a s i m a s a m a q t e e w a g u r a n o
ありましたね。今でも 鹿島様ってえ 岩倉の

h a z + z i r o s a m a - s a e g e - b a k a s i m a s a m a - n o s o b a - s a
八次郎様へ 行けば 鹿島様の 倒に

e g e b a j a c y n o m e q t e a r u d e g a g , o r e d a b a e q t e m i d a
行けば ヤゾノメって あるとよ オレなら 行ってみた

k o d o - m o n e d o m o . h a n a f u t o g u s a j a c u n a r u d o .
ことも ないけれど 花 一つに 八つ なると。

K j a - c u - f u - s a - n o - m e q t e n e
ヤーツフーハーノーメってね。

N N da . j a g t n o m e , s o r e - d a b a u m e g u k e - n i c u g e d e m o
そうだ。ヤゾノメ。それは 梅漬に 浸けても

k a w a r i n e q t e - a n t a .
変りは ないとだと。

R h o n d a - j a .
そうだよ。

K j a c u n o m e q t e o i s i e m o n d e s j o - n e . N m e m o n - d a s u -
ヤゾノメって おいしい もんでしょう。うまい もんでしょう

b a n a .
なあ。

N n a n t o g a n a s d a g a , o r a k u q d e m i d a k o d o - m o n e - s i
どういうものか。俺 食って みた ことも ないし。

n a q t e r a d o g o m i d a k o d o - m o n e - n o hō b a n o .
なっている ところを みた ことも ない。の そばの

k a s + m a s a m a - n o h ū n b a - n o j a c y n o m e q t e j u - k i
鹿島様の そばの ヤゾノメって いう 木

e q p o d o , m u g a s + g a r a - n o k i .
一本 と 昔からの 木。

R

N a e , m a g t k a s i m a s a m a - n o k i . o : m u g a s + - g a r a
.....あい、ます 鹿島様の 木。大昔から

a r u a n t a g a e j a c y f u s a n o u m e - d a q t e j u - m o n o .
あるのだよ。ヤツフサノクメだと いう もの。

s o n o ū m e a r u - a n d a .
その 梅 あるのだ。

K a r a n c j a g e q t e j u - f u - n i k o . j u - n - d e s u - n e , a r u -
アランチャゲって いう ゆうに こう いふんですねえ。

d e s j o - n e q t e n e .
でしうねえっていうことね。

N aru-do, haqkiri aru-anda.
あると。 はっきり あるのだ。

K udasena, arancjage qte to-ju-ba-daba arude-
そうですね。 アランチャゲという場合は、 <あるで

s jo - das bae,
しようと>でしょう。

R honda.
そうだ。

K arudaro-qte-ne ju- imi-ne, arudo qteba haqkiri
あるだろうってね。 いう 意味ね <あるど>っていえば はっきり

aru wage - da.
ある わけだ。

N haqkiri aru-anda.
はっきり あるのだ。

【14】繁次郎の話

録音日時 1967年2月26日
録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉
吉田道貞氏宅

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生 年) (職業) (居 住 歴)
N 吉田ナツ 女 明治22年生 畜業 脇本だけ

解説: 大分のキッショムみたいなものがどこにある。いわば日本の伊豆保氏である。ここに四つ語りてあるがあまりないしたものではない。

① 旗は川に ② 紅餅 ③ 山さ行ってマギキリ ④ 若勢ぶり

① 旗は川に

N s+nebezro, s+nebezro, baba-do futari e de aq-
繁次郎。 繁次郎。 婆と 二人で いて あ。

tadogw. musasi-no s+nezeiro-no baba-na na-n-
たどよ。 武蔵の 繁次郎の 婆なあ なん

to karate jan-de-sjw jan-de-beba mote kurus+
と からだ{は} 痛むし を 痛んでそれに 屋根てえば 漏ってくるし

ma, hjaqki gurumi-ni naqte mes+mo na Nmo
まあ 借金ぐるみに なって 飯も なにも

kwa ne wage, magni+ nederujori-mo hoga na-
食われない。 わけ。 毎日 痘ているより ほか な

gute-na, sosithe ame-wa furus+ -sjw, ni iwa-mo
くてなあ。 そして 雨は 降るし。 疽も

na Nmo kawa-ni naqte simata wage -da, s+taba,
何もみな 川に なって しまった わけだ。 したら

s+nebzro, na-n-te madaja niwa-mo na Nmo kawa-ni
繁次郎 なあんて また 疽も 何も 川に

naq tane, kore-demo sjeba asunderugwte, baba
なつたなあ。 これでも すると、 遊んでいるのかと 繁

sore kudoeda-do, egini+gi, cijame xjori donto
それ、 口説いたと、 一日。 チ+メ ジョリ ドンと

n-ase-de, sora banba kado ojonde kita cekamero
抜けて そら 備 旗 歩いて 来た。 滅め (にしん)

kado ojonde kita, na kawa-da mono kado oj-
旗 歩いて 来た。 なあ、 川だ もの。 旗

Nde koneba na Nne-na, so ju- mo-n-da wage -sjw,
いで 来なければ ならないなあ。 (万事)そうした わけだ。

② 紅餅

N tonari-no mono mire, asaq-kara ban-y-e-made
隣の お者 見る。 明から 痘まで

mog+ cude, a-ja s+te kanmoq+ hos+te erun+o-
餅を ついで あのようにして 寒餅 戻して いる貴様

oqde tonku(コロ) ne opde mog+ko hitog+ kwasjerene-de na nandaqte,
に おいて 餅を 一つ 食わせられないで なんだってえ。

so. eq qta wage-da.
そう 言った わけだ。

sitta-ba. e. e. asama-ni zuqpari cude kwasjeru.
そしたら、ええ ええ 前に いっぽい ついて 食わせる。

sjogubeni kagte ke, füdeko-do. baba-ne sjø-
食紅 買って こい 篠ヶ口と 席に 食

guben-do füde eqpo kawasje-da wage-da. sot-
紅と 並 一本と 買わせた わけだ。 そし

te, kondo togast-te kondo a. jo. futoban-de-
て こんど (食紅を) 買ひて こんど アコロ 一串げ

no uct-ni kondo hos-teaqta kondo n-na sjogu-
の うちに こんど 乾してあつた こんど みな 食

benko cuge-de jaqta wage-da. un, un, sono
瓶口 つけて やつた わけだ。 うん うん、 その

tonari-no taqra-no <R un> s jø mög+qko-sa.
となりの 平の うん 席ヶ口に

na-nito asamani ogitaba-sjø mamaende-sjø ck-
なむんと 朝また 起きたら さながら 血

çudamidem-ni naqteru wage-da, agagu naqte-na
が付いたみたいに なってる わけだ。 亦く なってなあ

<R honda> na-nito ore-no mög+sa osorosine
そうだ。 なむんと オレの 残に おぞろしい

mono cudedaqte mini egeba n-na magkani naq-
もの ついでって 見に 行くと、 みんな 真赤に なっ

teru wage-da, nanno tonan-no karapojami-sa
てる わけだ。 何の、 残の カラボヤミに (急け者)

nasite jareqte wage-de nasite kwaeru mon-
鼻で やって わけで、 なんで 食われる もの

dage tonari-no karatejami-sa moqe egeote,
かとて 残の 急け者に 持って 行って

nanto eq+niq-ni nadomö cuda mög+ nadang-a,
なむんと 一日に 何度も ついた 無 なのだが

futari-mo'sannin-mo s+te, cuda moq+, deroqto
二人も 三人も して ついた 展 デロリと

moraqté hitofuju agi-s+ta-dona. (笑)
買って 一客 (笑) て思き歸したとさ。

③ 山さ行ってマギキリ

N sôregara kondo-sjø ma, s+peze+zro ko-s+te-dagte
それから こんど 集次郎 こうしても

jazjaganentégane jadode e. hito jadowasjede.
だめだから 届って いい 人 届わせて

jaqta-do. s+taba kondo, s+peze+zro, cjo magi-
やつた。 したら こんど 集次郎 今日 薬切

kiri-id-de. jama-sa qeqte, magi, hora, jogama-wa
りだよ 山へ 行って 薬 はら 四釜は

tagansenantégane, kiqtekoqqte, jo-s+do (o)mo-
焚かねばならぬから 切って 細いってえ。 よしと 思

te eta wage-sjø, s+taba kondo, futagama
おでいた わけよ。 したら こんど 二釜

kiqte kondo-sjø o-furi-kas+te nededa wage-da.
切って こんど 大きな顔して 寝ていた わけだ

jama-naga-de-na. sogode kondo, eqte midabas-jø
山中でな。 そこで、 こんど、 行って みたら、

futagama-jori kiqte ne wage-da. s+peze+zro,
二釜しか 切って ない わけだ。 集次郎?

kore sjeba nadaqte futagama kiqtesjeba
これ すると、 何だって 二釜 切って

nedei jo-gama kiru hñzuni s+te-sjø edanega-
寝て! 四釜 切る 苦に して いたでないか

do, nani saberuqtega. koqc+no kage-no ho-sa
と、 なに しゃべるのか。 こっちの 蓬の方へ

kite mire-dm. koqc+no ho-no kata-kogoc+sjeba
来て みろ。 こっちの 方の 片水口 すると、

ki qta-a nda qte na, koq+ mide futa-gama areba,
 切ったのだよ なあ こっち みて 二釜 あれば、
 koq+-no ho. mide-mo futa-gama areba. jo-gama-
 こっちの 方 みても 二釜 あれば 四釜、
 daaqtado. sjeba nda kanzio-dadomona. kada-
 なのだと。 そいえばはど そういう勘定だものな。 片
 kogoc+dare ki qta-a nda, ore ki qta-a nda, sjeb-
 木口 誰 切ったのだ オレが 切ったのだ する
 ba sore jogama-ni naqte s+maqteru wage da.
 と それ 四釜に なって しまって わけだ。

④ 着勢ぶり

sore-gara kondo s+be ziro-dogo kondo wagazje-
 それから こんど 繁次郎を 今度 <若い衆>
 ni tanomo-ni eqta wage da. egutotte ema-
 に 韻み 行った わけだ。 よく 取って 今、
 na nbo na nbo-ni tanome neqatoba e. e-qte. s+ta-
 どれほどに 頼まれないかといったら、 いいいって、 そして
 ba-sjw ore-sjw na n-demo s+godo-daba surusir-
 ル オレは 何でも 仕事は するし、
 sjw wage da.
 わけだ。
 sitaba kondo-sjw oeno jonda mono-sjw na n-demo-
 したら こんど オレのような 若 何でも
 sjw kwan non-sama-no hidakes-sjw ore-dogo ja-
 繁音様の 日は オレを 休
 masjede kere qte. kwan non-sama qta qte e+ni q-
 ませて くねって。 繁音歌といっても 一日
 bari na nne-do omote, ae aq e-dm eqtakodone,
 がにん ならないと 思って アエ アエ いいよ と言ったことよ。
 s+be ziro nanisuruge teba cjo-wa e+ba n-no kwa-
 繁次郎 なにするっていうと、 今日は 一番の 繁

non-sama da qte wage dana. asta-ni nareba
 音様だという わけだな 明日に なると
 mada-sjw s+be ziro nanisuruge teba cjo-wa
 また 繁次郎 なにするかというと 今日は
 niba-n-no kwan non-sama da, asaqte-ni nareba
 二番の 韵音得だ。 明後日に なると
 cjo sanban no kwan non-sama da qte wage da.
 今日 三番の 繁音様だという わけだ。
 kondo-sjw na n-to ta+zu sanban aru wage da.
 こんど なんと 絶えず 三番 ある わけだ。
 kwan non-sama-na. sjeba cug-i-ni-sjw sanzju-
 繁音様が すると 次に 三十
 nigi+jori ore ja+u nbo oboe nedo. ado no miq-
 日より オレ 休んだ 覚えが ないと。 あとで 三
 ka sjeba nanto s+te kueruan doto. soede
 日 すると なんと して くれるのだと。 それで
 kondo ado no miqka-buri-mo mada-sjw ton-neba
 こんど あとで 三日ぶんも また 取らねば
 naran sanda dona. jaqpa sanzju sanba n-no kwan non-
 ならないのだとよ。 やっぱり 三十三番の 繁音
 sama. soede kondo ojagada-mo na nmo mageda-do.
 样 それで こんど 親方も 何もみな 負けたと。
 e+nen-zju nesje-de kwasje-de sos+te miqkad-
 一年中 痴せて 食わせて そして 三日づ
 zucu-ni sa+bari aru wage da. soede s+be ziro n-
 つい 下がり ある わけだ それで 繁次郎に
 kate totemo awan edona.
 かかって とっても だれもだめだと。

【15】昔 話

聲音日時 1967年2月26日
錄音場所 秋田県男鹿市脇本大倉
吉田進邸宅

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居所)	(住地)
N	吉田ナツ	女	明治22年生	農業	藤本だけ	
U	吉田進	男	* 16年生	*	(開手手)	
S	吉田家主婦	女	40才くらい	*	(+)	
K	菊地正信	男		高校教諭		

① 松かさ三升で飲事——嫁の資格試験——

解説：マツカサ（松巣）は方言で〔madz-m w-e-DE〕マツカサリだがここでは英語のマツカサでみえる。ムガシはオナ歌がヨケエ居たまご。ナンダ嫁テモ選プロガデキタではじまる。ここではその線の能力試験で、マツカサ三升を与えてゴハンを飲めやヌグイ（毫升）をつくらせ、そしてユコ（湯）までわかせようとするのである。三升くらいでマツカサオクケル間、コマチは大変と一つづつ——最後までマツカサがあるようにと——くべてゆくのが中以下の頭脳の持主、マツカサが答えないうちにすでにマツカサがなくなってしまう。誤り入資格十分と判定される上級は渠して如何なる方法を以て危険したか。

N mug-as+banas+ k'adaro-ga.
音語 語るうか。

ar'u mug-as+ ne-e-da wage-s+jm, hitorimus'ko
ある 者に、 という わけよ。
ひとり息子が

jome-mo raf-u-ne-da wage-s+jm, na-n-to mōdo-daba
嫁を 買うこと、 というわけよな。 なんと 昔は

ema-jor-i-sjm onābo jōge- eda tameni nandara
今より 女が たくさん いたために どんな

jome-de-mo eran-de morau-ni egata wage-d.
(いふ)嫁でも 遊んで もらう{に よかった} わけだ。

nde-sjm oreno e-sa kuru jome-sjm madzukasa
それで、 他の 家へ 来る 嫁よ。 まつかさ(松巣)

sanzjo-ni mama-dō odzuge-do juko-do, so.
三升で 腹と 肝汁と お湯と そう
tagu-en-das+jm jome-de neba morawa-ne-do.
たくような 時で なければ もらわないと,
soc-de kondo tadekanban sāe-da wage-da.
それで 今度 立看板を 下げた わけだ。
so-ju-kōte, konda-sjm ore-midōna monozugida
そういうことで 今度 オレ(俺)みたいな 物好きな
monde aqta-be-sja, bōre-daba ore ēgūte kj-ta
もので あつたんだろう。 それなら オレ 行くといって 米た
wage-da, manzu-sjm kanban-ni joqte kj-ta-do.
わけだ。 まず 看板に 上って 来た(という)。
sitaras-sjm, saken-s+te mireqte, madzukasa
それなら 試験して みろというわけで 松かさを
sanjzo azug-e-de-sjm mama taga-sje-de odzuge
三升 預けて(与えて), 飲むを 飲かせて おけな
niraj-sje-de so-s+te-sjm juqko-mo wagasu-anda
煮させて そうして お湯も わがも という
wage-da-na, sore degire-ba-sjm, mandzu jo-me-
わけだな。 それが できれば、 まず 原
qko-ni moraude kodoni naqta wage-da. so-e-de
くも もらうという ことに なった わけだ。 それで
kondo ma- ta-ga-sje-de-ba, mandzu sa-sjō-ni
今度 まあ たかせたら、 まず 最初に
futacqcu miqcu futacqcu miqcu qte mandzu-sjm
二つ 三つ 二つ 三つといって まず
kübe-de jaq-ta-ba-sjm sanjzo-no jadze-ni-sjm
くべて やつたら 三升の もの(松巣)で
manma jaq-ta-gori nidadane wage-da. so-e-de
が やつがより(やとか) 立たない わけだ。 それで
mandzu sore ragudaqe-de aqta-do-gaq. Nde, ni-
まず それ 溢第で あったとよ。 それで 二

banme-ni-sjw kita hito-sjw ore s+tarasjw
 番目に 来た 人よ オレが それなら
 jaqte miruqte mada kita hito qda wage-da.
 やって みようといつて 又 来た 人よ い(居)た わけだ。
 s+tadomo mada madzukasa sanzjo ~azuge-de-sjw
 だが、 また 松かさを 三升 頂けて
 sono masma taga-sje-de mida wage-sjw. sogode
 その 費を たかせて みた わけよ。 そこで
 sono hitoqe-dzucu-sjw kubeda-wage-da. hitoqe-
 その 一つづく くべたわけだ。 一つ
 dzucu kubeda-dara kondosjw ore ha go-kagu
 づく くべたら 今度 オレは もう 合格
 semmon-dado omogte-sjw hitoqe-dzucu kubeda-
 するもんだと 思って 一つづく くべた
 wage-da. sogode sore-mo madasjw manma nida-
 わけだ。 そこで それも また が 並立
 dane-de ha nesse-si mimaqta wage-sjw. nanto-
 たないで (松かさ)なくして しまった わけよ。 なんと
 sitaqte jazjagang, mada sore-mo ragudae-da
 しても 動目だ、 また それも 落第という
 wage-da. sore-gara-sjw e-kagenda hanegori
 わけだ。 それから いい加減な 跡ね返り (おてんぱ)のが
 mada kida wage-sjw. ore sitara jaqte miruq-
 また 来た わけよ。 オレ、 それなら やって みようと
 te sitara mada madzukasa sanzjo ~azuge-de-
 いつ そしたら また 松かさを 三升 頂け
 sjw s+ken sasjeda wage-da. nanno hi-
 て 試験を させた わけだ。 なんの ことない
 eginari boqkori sanzjo kubeda soreni hi-
 いきなり ボコリと 三升 くべて、 それに 火を
 eque-da wage-da. do-dodo nidaqte simata
 つけた わけだ。 ドードーと 煙立って しまった

wagesjw, sanzjo-no ma., hitokube-de. kondo
 わけよ、 その三升の 松かさが、 そのぐべで。 今度
 niba-nme-ni kono kiwa-sa ko-sw hanedeqtajadze
 二番目に この 頭へ このように 読ねていったやう
 (手貝頭) (手貝頭)
 konda ~azubeda-de, sositaba-sjw odzugeqko ni-
 (松かさ)をこんど 集めて。 そしたら 招けが 並
 daqta wage-da, odzugeqko nidaq-ta-ba jaqto
 立った わけだ。 招けが 煙立ったら ャッ(感歎よく)
 oros+te, sono ogikko-sa-sjw cja~bamako cjt+q-
 おろして、 その オキ(県)へ 茶釜を おしつ
 cakeda wage-da, sore-de manzjogu s+ta-dona,
 けた わけだ。 それで 満足 したということだ。
 nte, anmari ke-c+jaru-mo mada e. kodode
 それで、 あんまり ケチ(吝啬)するのも また いい ことでは
 nean+da wageda, sogo-sjw adamano mondag-
 ないという わけだ。 そこには 頭の 間題
 de-na.. sogede, sono hito mandzu sogo-no
 でな。 それで、 その 人(娘) まず そこの
 e-sa jomeko-ni naqte osamaqta-do-jona han-
 家へ 娘に なって おまつたという 話
 s+d-a. sore-de topiparari.....
 だ dem. それで トッピンバラリ。

② <やぐわん>と<めくされ>それに<じらみたがり>の話

解説: ちょっと上品めいた話ではないが、昔語の世界なら<めくされ><しらみたがり>などありふれたことでどこにもみられたし、自分たちにもあったもの。但し<やぐわん>だけは古今東西を通じて通ずる。この三人がナンボカユイ(第1チャッテ カガネッコ、ナンボ 漢ザタテ カシネッコ)をしようと前進する。コネコはコスラネコである。ヤグワンとシフミタガリはかゆくて死ぬほど、めくされはメクソと誤でこれもそれほど、さて三人この勘定をいかに切り抜けたかというものがこの昔語のホライ。

Naru mugash-nē tomodac-qko sannin asonda
 ある 音に 友達 三人 進んだ
 wag-e-sjw. sono dogi-sjw futori jagwan-de,
 わけよ。 その 階 ひとりは ヤガン(先頭)で。
 (頭頭)
 futori sirami-tagari-de. futori mekusare-de
 ひとりは シラミタガリで。 ひとりは メクサレで
 aqata-dogaē sannin-dzucu asundeda wage-dai
 あつたよ。 三人いっしょに 遊んでいた わけだ。
 soregara kondo-sjw futari (言ひなおして) sannin
 それから 今度 二人 三人
 astn-de-sjw eqsjokeme kedo-naga aruete-daba,
 送る 所意に 街道なかを 歩いていたら、
 ja ja cios-sjw nanbo ketaqte-kagan-qko jaro-
 やあ やあ 今日よ どんなに カクテモカガネエコ やろ
 gat(qte). ae-aq. sttaras-sjw ore-mo mada nanbo
 うか(って)。 うん うん そしたら お前 また どんなに
 managu-sa namyā de-de kitabatabe kosoqko
 マナコ(服)に 亂が 出て 来たとて コスラヌエコ
 jaruga(qte). sje-ba ore-mo jagwan kagansqte
 やるが(って)。 そしたら オレも ヤグワン カガネ(って)
 sannin-sste kime-da wage-da. sokode kondo
 三人で(このように) きめた わけだ。 そこで 今度
 namo-kanmo sirami-tagari kaku-te sinu-enda
 ナムロ-カンモ シラミタガリは 痙(く)くて 死ぬような
 wage-sjw. anmari agirede konda-sjw ko-e (言い
 わけよ。 あまりのこと) ことに あわてて 今度 (ちょうど)
 なおして) e: anba-e-no kawaqko-enda dogo-sa eqta
 いい ぐあいの 川のよう ところへ 行った
 dogi kamō eqpa ton-de ki-ta wage-dao, oja!
 とき 鳴 一羽 飛んで 来た わけだ。 オヤ
 oja! oja! oja! akko-sa kamō eqpa ton-de
 オヤ オヤ オヤ、 あそこへ 鳴 一羽 飛んで

ki-ta-daja. ano kamō, gozjo gozjo gozjo gozjo
 来たよ。 あの 鳴 ゴジョ ゴジョ ゴジョ ゴ
 zjo gozjo gozjo qte, namo-kanmo gozjo gozjo
 ジョ ゴジョ ゴジョ(て) ただもう ゴジョ ゴジョ
 gozjo qte higsisi-de knde smaqta wage-da.
 ゴジョ(て) 必死で かいて しまった わけだ。
 soede sirami-tagari kw dogo minna ka-e-de
 それで シラミタガリは 呪い ところを すっかり 摂いて
 smaqta wage-sjw. sogode kondo-sjw jagwan da
 しまった わけよ。 そこで 今度 ヤグワン の
 wage-sjw. sataras, ore-mo jaroo-ga-doo omote,
 うか(って)。 そしたら オレも やろうかと と思って
 konda sono dogi ko:site gwanzuri cukame-ba
 こんど、 その 時 こうして グワンブリ つかめば
 eqaqta deni, adama gwanzuri cukame-ba eqaqta
 いかったのに、 顔を グワンブリ つかめば いかった
 deniqte ko: jaqt wage-da. nanbo-gari-mo
 のにいて こう やった わけだ。 何處も
 (手真似)
 so: jaqtara sore-mo mada jagwan kande-sse
 そう やつたら、 それも また ヤグワンを 摂いて
 manzjogu-ssta wage-da. soregara mekusare
 満足した わけだ。 それが、 メクサレは、
 konda-sjw nato sur-w ore-mo mage-de erare-
 こんど、 何と する オレも 飢けては いられ
 nse-do omote konda kanqeda wage-da. sono
 ないと 思って こんど 考えた わけだ。 その
 dogi teqpo-demo areba eqaqta-domo-na, doqto
 とき 鉄槌でも あれば よかったともな、 フッと
 doqto udeba eqaqtan. R. 低声で managu kosser-
 ドット 打では よかったのに それでマグを こする
 ac+ sono udz-ni mekuso derototo odos+te,
 のだ その うち 目隠 デロト(すみり) おとして、

(笑大きくこのところ不分明) soredede san ni n-nagara kondo-
(しまったわけだ) それで 三なながら (全部) こんど

sime kame dogo-mo kedo-si, suqkari degide-sjō
度い ところも 握いたし すっかり やってしまって

manzjogu sijtadogaē.
演説 したとよ。

⑥ 狐とむじなとを化かした話 (1967年9月3日 肘地検討)

解説: 詳しいえほ<博勞が狐とむじなとをうまくかかして大もうけした話>である。よく流布されている話で、話そのものは別に珍しいものではない。カクダを撫でて、コノアドリアソマリ内 クラヌテアッテ 指揮レバフ マダ コンダ 好エ アンバエニ ナルウグダなどなかなか話者の巧みさを物語っている。

N dziqqja damaqtefe-jo.
節チヤ だまってれよ。

U oq.
オエ、(うん)。

N kiçune-do muz+nado-sjō ningene-ni damagasa-
狐と むじなと 人間に だまさ

reda-do, kiçune-do muz+nado, are-sjō, aru
れたと。 狐と むじなと あれ ある

baguro jama-sa-sjō koen wageda kidaba,
博勞 山へ こういうようにな(た) わけで 開いたら

kiçune-do muz+nado kondo hanas+site so-
狐と むじなと こんど 話して 相

dansite-da wage-da, nanto mus+, eme asita
談して いた わけだ。 なんと ムジナは、お前 明日

umani naredeja, ore dogo sogo-no sōg sagas-
加に なれよ。 オレ どこ その それ 諦め

ja-ni nanbo tago-temo e: umadaba kaude
居に どれほど 高くても よい 用なら 買うという

hanasidantegang temen-dogo uqte-sjō ore
話だから、お前(のところ)を、売って オレ

zjeni mogede kite futaris+te wagerajaqt
威、掛けたて 来て 二人して 分けようよ・

sodaN-s+teda wageda, s+taba konda-sjō kore-
相談していた わけだ。 そしたら、こんどは これ

he e-kodo kida-do asama-ni nan nandogi keba
は よいこと 聞いたと、朝に 何時に 光いば

e, s+taba-sjō kigene-dosa ju-nis+ asama-ne
いい (という) したら 狐に 言うに 朝に

hajone hajagu kejaqte ko eqta wage-da.
早うに 早く 来いよって こう 言った わけだ。

josido omogte kondo-sjō baguro kondo cudi-
よしと 思って こんど 博勞 こんど 次

no asama-ni kondo-sjō hajoogi-ni hajagu
の 朝まに こんど 早起きに 早く

maganaqte goza kate fukagasa kabute kon-
身度をして、裏路を 着て、深巻を 着て、こん

da-sjō degagede eqta wage-da.
ど 出掛けた 行った わけだ。

mus+: edagw. o-q haeneganaja. aja hajagu
ムス+。 エダグ。 オクハエナガナヤ。 アヤ ハヤグ

eganeba nane abejas+tara-sjō must+ bageda
行かなければ ならない さあ行こう。 したら むじなは 化けた

wage-da, na-to moqto jogu bagere-dw. kogo-no
わいた。 なんと もっと よく 化けろよ。 ここ

adari amari nigu taranedewte nadere-ba-sjō
あたり あまり 肉が 足らないよといって 摑れれば

mada konda q. anba-ni naru wage-da.
また こんどは いい 具合に なる わけだ。

sa-konda s+qkari s+qkari nandede konda-sjō,
さあ、 こんどは しっかり しっかり 焼けて こんど

na-n-to konda e. an-ben-ni na-qta-di ego-dm.
 なんと こんど いい 具合に なったよ 行こうよ。
 temodo-ne sagaja-sa eqte kas+ u-n-te kuqtara
 酒屋へ 行って 銀を たくさん 食ったら
 ni-de-de ke-jogte. o-o-qte. soso-te keba zjeni
 逃げて 来いよって。おーおーって。そして 来いば 銀
 wageranagte ju-dajagu ~nd a da zjeni wage-
 分けろうよなあって 言ったのに対し うんうん そうだそうだ 銀 分け
 ruqte. eqta wageda.
 ると 言った わけだ。
 sitaba kondo-sjw ma e. an-ben-ni bageda. sa-
 そしたら こんど まあ いい あんぱいに 併れた。さあ、
 ore noqte egudwqte ke-qcu bugtadse, kondo-
 オレ 乗って 行くよって お尻を ぶったたいで こんど
 sjw zeqto funagos+no sagajamidmna (dogo-sa)
 ザーっと 船越の 水屋みたいな (所へ)
 noqte eqta wage-sjw. na-n-to mireba miruhodo-
 乗って 行った わけよ。 なんと 見れば 見るほど
 sjw e-sjw umada wage-dana; kondo-sjw sono
 いい 馬だ わけだな。 こんど、 その
 koro-no kaneme-dara-sjw na-nbogan-e uqtada-ga
 瞳の 金目なら どれらいに 先たたのか
 wagarane-domo, o-gada e. ne-ni uqta wage-sjw.
 分らなければ、 だいたい よい 信じ 先たた わけさ。
 soso-te konda e-sa kje s-kane furisste, sono
 そして こんどは 家へ 来て 知らない フリして、 その
 ~uma eqpigi tanda moge-de-ga sono baguro-sjw
 馬 一匹 ただ 併けてね、 その 博房
 jorokoneda wage-da. sokode kondo, sono na-
 喜んでいた わけだ。 そこで こんど、 その 何
 nisste, mu-zina kondo-sjw e. kagen kash kute
 して、 むじな こんど いい がげんに 稽 食って

~ntagunaqta-do, maj-a-gara, koede, nl-de-de.
 いやに なったと。 馬小屋から、 越えて、 逃げて
 kit-a wage-da, kisi, kis+, zjen-wagero=eqte
 来た わけだ キーよ。 キーよ。 銀 = 分けようよって
 kits. Kono c+kisjo nra ore-dosa uso maBeja-
 来た。 この 生者！ 貴様 オレに ウゾ(嘘)つきや
 ~gat-e futo kesa mugwne eqtaba, soete hogo-sa
 がって、 ひとが けさ 遇え 行ったら そして よそへ
 (自分という)
 kagurede enede ema su-unidse nospimb'jogu
 隠れて いないで、 今 すぐに 銀 (不思明)
 degi-da-dote futari site kondo keh-kwa amata-
) 二人 で こんど ケンカを はじめた
 dona, na-nmo kanmo, s+ra deba kurwqte kumiuci
 と。 なにも かもすべて、 白いと いえば 黒いと言て、 相打ちを
 jaqta wa-g-e-da. sitaba sono baguro konda
 やった わけだ。 そしたら その 博房 こんどは
 zjen unto mo-gede simate kondo kigene-do
 銀 うんと 働けて しまって こんど 狐と
 muzina (未完のままテープ切れにて無音)
 むじな

④ 無実の罪に泣く如来さま

解説：和尚さんがこっそりかくして貢味していた＜烏賊の塩辛＞小僧が発見留守中deroqto
 と食ってその罪を、あろうことか 如来様に盗りつけたという話。つまり塩辛を御堂の如来さん
 に盗りたっておいたのである。さては和尚に打たれて如来さん＜食わん＞＜食わん＞<それ見
 る小僧クソではないか>小僧なにくそとこんどは如来さんをそっくり盗へ、ついに如来<クタ
 クタ クタ>それも喜び和尚さん云々となる。

N (mukas+no oqsan manqeu ma-sjw), namakusamonoo
 (昔の 和尚さん ます まあ), 生物
 kueba-sjw namakusa-bo-zeqte ewareruqte-sjw
 食えば 生臭妙頭と 吉われるといつて

~kobocja-ni kwasenede oqasan-barai kuqta monda
小坊頭に 食わせないで 和向きんばかり 食って いた
wage-da, mugasi-ne-na. soe kondosjw ega-no-
わけだ、 音になふ。 それへこんど、 島鉄の
sjogara kame-sa kagusute sosit-sjw sotge
塙辛を 肩に 隠して、 そしてよ。 そして。
z+bun-de kondo ogjo-ni dehata wage-da. s+ta
自分で こんど お経に 外出した わけだ。 そうした
ori-ni, kondo je-ne pede sono s+das-te
おに、 こんど 小坊が 家に いで、 その、 捩して
aqtte sono ega-no-sjogara kame-ni futogu de-
歩いて その 島鉄の塙辛を 肩に ひとつずつ。
roqto kutes+mata wage-da. soede kondo sono
ロリと 食ってしまった わけだ。 それで、 こんど、 その
oqsan kitessjw sono ega-no-sjogara kudo omote
和向さん (帰って) 来て その 島鉄の塙辛を 食うと、 思って
midabane wage-da, namo. soegara sono oqsan
見たら、 ない わけだ、 すっかり。 それから、 その、 和向さん
juni, kozo. kono ega-no-sjogara dare kuqa-
晩には、「小僧!」この 島鉄の塙辛! だれが 食った?
teba-sjw kuqta kuqta no-gorisjw njoromsan-sa
と言ったら、 (食った) 食った のりを 和向さんへ
deroqto noqte oeda wage-da. sogode, njoromsan
デロリと 乗って おいた わけだ。 そこで、「和向さんが
kuqtaenqtaqte so. eqta wage-da. njoromsan sje-
食ったようだと そう 言った わけだ。「和向さんが、 それな
ba sjogara kuqte ju. kodo aruga. uso-dara
ら、 塙辛を 食って、 いう こと あるか? うそなら、 (うそだと思うなら)
midekere, osjosan. njoromsan mamande kusigju-
「みてくれ 和向さん」(みたら) 和向さん すっかり
sjw sjogara nodagute eda-do. uso-dara mini
塙辛を 並たくって いたと。 うそなら 見に

ande kereqte, eqte midaba na-ruhodo njoromsan-
一緒に来て くれて いでの 行って みたら なるほど 和向さん
sa maroqkiri sjogara nodaguteda wageda.
へ すっかり 塙辛を 並たくって いた わけだ
soede kondosjw njoromsan-sjw hontonimo-sjw kuqta-
それで こんど 和向さんが ほんとに (塙辛) 食つ
ga kwanegaqte kondosjw konboedo oqsan-do
たか 食わないかといつて こんど 小坊と 和尚さんと,
kondo kekina-ni nadta wage-da, soede kondo
こんど ケンカに なった わけだ。 それで、 こんど、
masaga-ri moqte-sjw njoromsan-dogo kondo tada-
マサカリを 持って 和向さんを こんど 呼い
da-do, kondanisjw kuqte kuqta cekede ede
たと。 このように 食って 口へ つけて いて
nastesjw kwansqte sono nna kodo arumon-dado
何で 食わない そんなこと あるものかと
mote tadaabasjw njoromsan kwan kwanqtenada
思って 呼いたら 和向さん くわん くわんと
naqta wage-da. sono njoromsan masagarimoqte
(泣いた) わけだ。 その 和向さん マサカリで
tadababa kwan kwanqte, so-ra kwaneqte juqta
叫いたら クワン クワンと、 そら 食わんって 言った。
hora, konzo. nna kuqtaaqsi-ni magigap neqte.
ほら 小僧 貴様 食ったのに ま違い ないって。
jost, sttarasjw dogo-mademo so. jaqte kuq+
よし、 それなら、 どこまで そう して 日
oginegoqtaba njoromsan-dogo nide s+mauqte.
落ちないことになら 和向さんを 煮て しまって。
kama-sa origida kama-sa kondosjw hitade,
鎧へ 大きな 鎧へ こんど 火 煽いて
njoromsan sjede nida wage-da. ni date kita-ba
和向さんを入れて 煮た わけだ。 煮立って 来た

kuta kuta kuta kuta kuta kuta kuta kuta qta te nada
 クタ グタ クタ グタ グタ クタ クタって 喰った
 wage-da. soede, njormsan-sjw osjosan kore
 わけだ。それで、如来さん、和尚さん これ
 mire-do. kondo kug+ og+ daga-na, kuta kuta
 みろと。こんど 口 落ちたかな、 食タ 食タ
 kuta kuta qta ju-do. so. ju. wage da kondo
 食タ 食タって 言うぞ。そう いう わけで こんど
 kobo-ni kage oasan mage da-do.
 (子)切に かかって 和尚さん 食けたと。

⑤ ダンゴがドンになった話

解説：荒布広い昔話

ドンと小川を飛びこえたら忘れじと連呼し来りしダンゴがドンとなり、ついに夫婦ゲンクッとなる。馬鹿御じれったさに嫁をゴソンと、嫁立腹ヒトノアダマナ ダンゴミディタコブツタグとなって、ダンゴが馬鹿御の娘によくやく登場となる。

N bagamugo ede aqta wage-da-na.
 馬鹿御が いた わけだ。
 sogode, kondo-sjw jome moraqtaba, jome-no
 そこで、こんど 嫁を もらったら 嫁の
 je-sa-sjw hiyanodogi kitaba, kondo asine jaq-
 家へ 彼岸の時が 来たら、こんど 游びに やっ
 tado, sono mugoo-dogo-na.
 たと、その 駒女な。
 S s+te maene sjabenegaq ta?
 して、(この辺)前に 話さなかつた?
 N sjabenegaqata-naja
 話さなかつたよな。

U sjaberet sjabete
 ヅベレ シベレ (小さく低い声)

N s+regara kondo sogo-no-je-no mono konda
 それから こんど そこの 家の 者 こんど
 dango kwasjeda wageda, hisanda tameni-na. sa,
 団子を 吻わせた わけだ。彼岸だったので。
 sonio danbo namboga umakute kutandaga kuqta-
 その 团子 どんなにか おいしく 食ったものか、 食々
 kodo-mo ne, hanas+mo s+raneqda danpo-de
 たことも ない 高にも 聞いたことのないような 团子で
 umogmtan-cja kondo kore umae mondana kore
 とてもうまかった こんど これ うまい もんだん これ
 nanto ju. mondataba-sjw danpo-dagte. omoe-no
 なんと いう もんだといったら 团子ってた。お前の
 je-sa qte ore-no dare-sore-ni kosirrasje-de
 家へ 行って オレの だれそれ こしらえさせて
 (嫁入った族)
 kugte, so. eqta wage-da. konda sono danbo,
 金いて そう 言った わけだ。 こんど その 团子、
 wasuretagu ne-do (o)mote-sjw konda-sjw je-sa
 忘れなくは ないと 思って こんどは 家へ
 kuru-nabara dango danbo danpo danpoqte, do-
 来ながら 团子 团子 团子 团子って ど
 go-madem o-sjw dango danpoqte kita wage-da.
 こまでも 团子 团子って 来た わけだ。
 sjegi eqpo aqta wage-da. nanto madagumakute
 小川 一本 あった わけだ。なんと またがれなくて
 donto madanda wage-da. sa. kondo danbo wasu-
 ドンと またいだ わけだ。さあ、こんど 团子 忘
 rede s+mate don donte kita wage-da. sokode
 れて しまって ドン ドンって 来た わけだ。そこ
 kondo-sjw je-sa kites-sjw abadon kosjode kwa-
 こんど 家へ 来て アバドン ござえて 食
 (主婦・自分の娘)
 sjereqte:s. eqta wage-da. tede nanto sjeba
 わせらって、 そう 言った わけだ。 テデ なんと すれど
 (主人・自分の夫)

donte nanno koqtate, don kōs jōde kwasjere,
 (やの)んってなんの こったって。 ドン こさて 食わせろ。
 ema-sjw nyo-anō je-sa egte don kuqtet kitaba
 今 お前の 家へ 行って ドン 食って 来たら 不分明
 cito-baga-no umā mondens, don kwasjre(qtara)
 ちっとやそっとの うまい もんではない。 ドン 食わせろっていいたら
 donqte ora s̄iranqte, nanto don s̄iran eko
 ドン 知らないって、なんと ドン 知らない こと
 aru mondagai, je-sa eqte kosje-de morate keq-
 ある ものかと、家へ 行って こさて もらって 食え
 te eqta monda monosjw s̄iran-e-de kodo aru
 って 言った もんだ もの、知らないといふ こと ある
 mondaga-to ju-monnde kondo kekwa-ni naqta
 もんかと いうので、こんど 痛極に なった
 wag-e-da, aba-dogo kondo sitadaganis kondo-sjw
 わけだ。 アバを こんど したたかに こんど
 tada de s̄imata wag-e-da, adama-sa, a:q, eqde,
 明いて しまった わけだ。 頭を。 あっ いたい
 edo, kono tede-jo adama-sa dango hodo-no kōbu
 いたい この テデよ 頭に 团子 ほどの 痛
 cu-da, aba, sono dango-jā'.
 付いた。 アバ! その 团子よ。

⑥ 風呂を解するジッチャとバンバ

解説：バンバ 始なく、ジッチャ 鼻なし。く聞たもの夫婦でなかなか済ま。さすがにバンバは女性、髪なきあたりは掛け拭。ところがさる日のさる折手拭kappariと落ちる。ジッチャ感に思えず一筋、後二句 タイデミクレバ グルノカメ。カメはるりとり、はげ頭、バンバたたぬけてはならじと<花>に<鼻>をあしらひ、ハナ ナキドキバ ナビシカルムと詠んだわけ。

N aru mugast-ni dziqcja-do baba-do pde aqtagaq.
 ある 背に お前と 要 いて あったと。

soe-de konda-sjw baba-doni kami oede negaq-
 それで こんど 婦さんには 髪が 生えて なかつ
 ta wage-da, dziqcja-doni hana negaqa wage-
 た わけだ。 婦さんには 鼻が なかつた わけ
 dana, soede fu-fu-ni naqtedado, soede konda-
 だな。 それで 夫婦に なっていたと。 それで こんど
 sjw baba jama-sa qgote konda-sjw nimogē s̄jqoq-
 婦が 山へ 行って こんど 物物 背負
 te kita wage-sjw, nanto-sjw eqsjokēme aqte
 って 来た わけよ。 なんと 一所懸命 歩いて
 kita-ba kowakute konda-sjw doqssari orosste
 来たら 疲れはてて ドサリと 向ろして
 ko-s̄ite-sjw toqkuraqgqte kojasita-ba kami-no
 こうして ひっくり返って このようにしたら 始め
 ne-sjw sono tenogogko kparrado toreda wage-
 ない その 手拭 カッパラと 取れた わけ
 da, sogode, dziqcja ju-ni-na na-sjw kondo-sjw
 だ そこで、 婦さん 言うに、なんと こんど
 na-toga jueba e-nadaga ade ne wage-damida
 なんとか いえば いいのか、的がない わけだ。 みた
 kodo negaqtante, sorēgara
 こと なかったので それから
 s̄iba-ni kagedaru kagetonoqe
 シバに かけたる 掛手拭
 wage-dana
 わけだな。
 noede midareba guru-no kameqte
 脱いで みれば グルの カメって
 ko-eqta wage-da, s̄ita-ba, sono baba mada
 こう いた わけだ。 そしたら、その 婦 また
 mage de reba e-domo, ore midena- mon-de
 負けていれば いいけれど オレ、みたいな もんで

haru-wa hana, naçu-wa momizi agi-wa ki-
春は 花 夏は 紅葉 秋は 菊

guq te wage-da
って わけだ

hana nagi togi-wa sabi+karuranaqte
花 無き 時は さびしかるらんって

wage-da. sore-de, doqca-mo docida wage-da.
わけだ。それで どっちも どっちだという わけだ。

sorede manzogu sitena, iqsj owaqtadons.
それで 満足 して 一生 終ったよ

topi (N parari)
トッピ (ンパラリ)

⑦ 餅粉の盐舟術

解説：森の低いビチャが餅粉を掉いでいたかだかに鳥を驚き揚げと見入りをする。鳥の高くなつた男ぶりをハナハナホドエーオドゴといつてゐるのがおもしろい。ハナハダ(甚)にハナ(鳥)とホド(程)とを添てゐるようである。底入りとなって思わざる伏脱出現。一矢勝負で宿題なハナハナハナホドヨイそれも見るかげもなく退治されたという話である。

N (hana-no) tagø odogo-buri-no e. jaçu hosiq-te
(森の) 高い 男振りの いい 人が 欲しいとて

kono fato egugoeqtaba ha zibun-de go-kagu-da
この 人 行くなら ハア 自分で 合格で

aqta. soede kondo jaç mançu tadefūda-ni jote
あつた。それで こんど やれ ます 立札に よって

marimasitaqte mançu eqta+tegæ. eqtaba
参りましたって ます 行ったとよ 行いたら

kondo-sjø omœ-daba hana fugukute qgenqte
こんど お前は 鳥 低くて よくないとて

mançu soe ragudaq-sita wage-da.
まず それ 落第した わけだ。

sore-gara mada çøbi-ni etqemo mada oma-hana-
それがら また 次ぎに 行っても また お前の鳥

daba midagunakute qgenqte ju. wage-da. mada
は 見ぐるしくて いけないと いう わけだ。また

çøbi-ni konda-sjø nan-to sitara enderoga-do
次ぎに こんどは なんと したら いいだろうかと

omote konda-sjø e. mançu qasjokelme ko hadade
思って こんど いい まだ 一筋眉 初を はたいて

konda-sjø komo gi kosjede eanba-ni site kona-
こんどは 粉舟 こしらえて よい具合に して こん

da hana-sa-sjø ko-site kire-ni noqte-sjø ko.-
どは 鳥へ こうして きれいに 立って こう

site hanako kosjede eqta wage-da. sosite-sjø
して 鳥コ とさせて 行った わけだ そして,

kanban-ni joqte magrimas+dado. oe magu-sjø
看板に よって 参りましたと。 おい ます

kono hito-dara go-kagu sanega-do omote cure-
この 人なら 合格 しないかと 思って 連れ

de eq-ta wage-da. nan-to midadogo na hanaha-
て 行った わけだ。 なんと 見たことも ない (鳥舟をおも
nahashodo e. odogoda wage-da. namo kamo
ナハナホド いい 男だ わけだ。 なんも かんも文句なし
しろく音った?)

hana-daba kire-ni-sjø nanto cjan-to sita uote
鳥は きれいに なんと ちゃんと した 鳥舟

e. odogoda wage-da. mama nde anda mida-da
いい 男だ わけだ。 (それが)まるで 貨方 みたな

hitodatantegæ. sore-de kondo-sjø kore-daba
人であったとよ。 それで こんど これから

eq-te kondo hanahana-hodo e. mondagara kore-
いいって こんど ハナハナホド いい もんだから これ

ha e. odogodado omote morata-wage-da. soede
ハア いい 男だと 思って 買ったわけだ。 それで

kondo gosju-gi site eqtantegae. etaba q-Nda~
 こんど 郡城儀 して 行ったとよ。 行ったら それは
 tate konda-sjw ned a wage-da. sogno-n e~
 いたと こんどは 寝た わけだ。 その 家に
 nan bogahodo nezumi eda monda naga futo-baue~
 どれほどか 風が いた もんだやら (たつた)一晩
 sjobu-de sono hana taqzi-s+te simaqtadona.
 勝負で その 春を 退治して しまったとな。
 jaqqari biqcia-no modo-no biqcia-de aqtaido.
 やっぱり ピッチャの もとの ピッチャで あつたと。
 (笑)

K modo-no biqcia
 もとの ピッチャ
 N modo-no biqcia-de aqta wage-da-na. hanahana-
 もとの ピッチャで あった わけだな。 ハナハナ
 hanahodo q-o dogode aqta-domo, kondo nezumi-
 ハナボド いい 男で あつたけど、 こんど 風
 ni kqte kazzirarede.....
 に かかるって かじられて

⑥ 米ぶくと栗ぶぐ

解説：ゴギリは<後家入り>で後妻のことである。
後妻のマコマイジの筋で、コメブグは前妻の子アワブグは連れ子。途中で話者コメブグとアワブグとをとりちがえたところがある。子供のカクレンボに先妻の子をヌガの中に、わが子をコメの中にかくしたが、ヌカはかるくぬわやかでコメブグは生き、コメだと安心して認めたアワブグは重さに息もできず冷たくなっておったでトッビンバラリとなる。

(注) 上記<ヌカ>は<前後>である。

N gogiri, gogiri so-sjw mugash+nq arutogoro-nq
 (後家入) 後妻 そう 昔に あるところに
 後添

gogiri mora qta wage-sjw, saqsjio-no sonda
 後妻 貰った わけよ。 最初の 死んだ
 futo-no ko-wa-sjw komebugu-d oju. onao-waras+
 人の 子は 米ブグという 女子童
 qda-dosa, konda-sjw gogiri mada-sjw awabugu-
 いたとき。 こんど 後妻 また 栗ブグと
 do ju-ko cu de jomēn naqte hita wage-da. sore-
 と いう子 連れて 側に なって 来た わけだ。 それ
 de-sjw naganaga kondo sono gogiri-sjw sono
 で なかなか こんど その 後妻上。 その
 komebu-dogo nigus+te sinuenda wage-sjw.
 米ブグを 帽くて 死ぬような わけ。
 (死ぬほどにくいの意)
 sjeba ano agi-ni naqta-ba-sjw kuri furou-ni
 すると、あの 秋に なつたら 栗を 捨うのに
 futari-i du cu jaqtaba-sjw manse komebugu-fugu-
 二人一緒に やつたら ます 米ブグの袋
 rono keqcsusa-sjw ana age de, awabugo awabugu-
 の 屋に 穴を あけて、 栗ブグ 栗ブグ
 fuguro-dabab-sjw biqci+ri noqta n d a wage-da.
 の袋は ピッチャ 積つたわけだ。
 soe-de-sjw komebugu nambō egsjokeime furoqta-
 それで 栗ブグ いくら 一生懸命 捨って
 tate tamara-nw wage-da. sono s+r+jacu-sjw
 も たまらない わけだ。 その うしろの (袋)
 komebugu-aqcia-daba tamaru wage-da. <Kawa-
 米ブグの は たまる わけだ。 <K栗
 (栗ブグの肌)(袋)
 bugu> sjeba-sjw kondo naNtomo kan tomo ja-sa
 すると こんど 何とも かんとも 家に
 でなく<栗ブグ>だと頭を正した
 egeba kondo-sjw sono o jagada-sa-sjw sagi-no
 行けば こんど その 親方へ 先(妻)の
 ko-dogo mācu dohe-dado, na n to kuri-mo furoqte
 子のことを まず 下へだと なんと 栗も 捨って
 <あほう>

kene-de, awabugu-daba-sjw eppos furoqte kite
 くることができず、栗ブクなら
 いっぱい 挟って 来て
 komebugu futoqeu-mo furoqte kone-do, kondara
 栗ブク 一つも 挟って 来ないと。こんな
 ko-ne epte, maenig+no enimangu-ma-sjw kusa-
 子に 言って 毎日の 郡にますまあ 類
 ricugedeeda n-tegq. sogode, kondo, aru dogi,
 づいて(じめて)いたと。
 そこで こんど ある とき
 o jagada jotas+ni epte enedogli-sjw kagurenbo
 親方 用足しに 行って いない時 (言いなおして)
 jaru, kagurenbo jareqte kondo juqgeeda wa-
 やる) 隠れんば やれって こんど 言い付けた わ
 ge-da, sositara ore konda omegada-dogo kagu-
 けだ。 そしたら オレ こんどは お前らを かく
 s+te misjeruqte, sos+te kondo uokodo-dogo
 して みせるてく。 そして こんど 自分の子を
 kondo awabudogo kondo kome-no nagasa kagus+-
 こんど 栗ブクを こんど 米の 中へ かくし
 ta wage-da. sore-gara kondo komebugu-dogo
 た わけだ。 それから こんど 米ブクを
 nog-a-no nagasa kagus+teda wage-da. nabo
 初啟の 中へ 聞いていた わけだ。 いくら
 dage-si+me sono micukeraqne wage-dana, Nna
 たっても その 見付けられない わけだなん、 みんな
 kagurenbo jaqte sabasini aqtate state micukera-
 隠れんば やって 探しに 歩いても 見付けから
 ren+me wage-da. sttaba s+m-e-ni naqte kondos+jw
 ない わけだ。 したら、 しまいに なって こんど
 nani+stro. uokodo kome-no nagasa haqte he de
 何しろ 自分の子 米の 中に 入って 冷えて
 s+mata onbodwag+de s+Ndeda wage-da, nog-a-
 しまって 重たいので 死んでいた わけだ。 栗

no nagasa haqta ko kondo egideda wage-da.
 の 中に 入ってた 子 こんど 生きていた わけだ。
 soe, sore, ooa kanzjo-daba mandzu madzu kome-
 それ それ、自分の考え方だと
 no nagasa sjede ogeba kome kuqte egideru-
 の 中へ 入れて おけば 米を 食って 生きている
 do omote sos+te qda wage-sjw, na. kome kuqte
 と思って そうし、いた わけよ、 なあ。 米を 食って
 egideru-do omoqtedajag+o-sjw sjede s+Nde,
 生きていると 思っていたのが 冷えて 死んで
 nog-a-naga-ni eda jagu-wa-sjw karokes+, nogis+,
 隠れの中に いた のわ 雜いし、 雜いし
 soreded egideda wage-da. Nde, konzjo war i ko-
 ソレで 生きていた わけだ。 それで、根性の 悪い こ
 do sjeba z+bunno ko z+bun-de koros+te sos+-
 とを すれば 自分の 子を 自分で 対して そうし
 te eneguna ne wage-sjw, na., so. ju. hanas+-
 ていなくならねばならぬ わけよ。 なあ。 そう いう 話
 nanda.
 なんだ。

非売品

1968年3月

国立国語研究所 話ことば研究室 発行

東京都北区福住西山町

